

育教の兒幼

號十第 號月十 卷八十三第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本曰

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (新刊)

觀察の實際

菊判一三〇頁

定價金壹圓

送料東京金六錢
市内金九錢
其他

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に伺ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (三版)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際 (四版)

幼兒の教育 (月刊)

菊版三五〇頁
送料市内金壹圓五拾錢
地方北海道臺灣
樺太朝鮮滿洲
金拾五錢

定價金壹圓
送料金六錢

一ヶ月金參拾五錢 送料金一錢
一ヶ年金四圓貳拾錢 送料共

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金七拾錢

目 日本国旗日の丸の旗
倉橋惣三 作曲
小松耕輔 作詞
次 道 ぶ し ん
井上武士 作曲

いうびんやさん
倉橋惣三 作曲
弘田龍太郎 作曲
渡し場の船頭さん
倉橋惣三 作曲
中山晋平 作曲
火消しのをぢさん
倉橋惣三 作曲
小林つや江 作曲

日本幼稚園協會編 (新刊)

幼稚園新唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金五拾錢

目 だ か
小山村 耕輔 作詞
小松耕輔 作曲
次 雨
杉山米輔 作曲

ほ た る
青山綾子 作曲
小松耕輔 作詞
ふ し ん 場
氏原 鍔 作曲
小松耕輔 作曲

○この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるゝことを期待してゐる。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

(新刊)

觀察の實際

菊判一三〇頁

定價金壹圓

送料東京金六錢
市内金九錢
其他

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に何ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (三版)

菊版三五〇頁
定價金壹圓五拾錢
送料市内金六錢
地方北海道・臺灣・樺太・朝鮮・滿洲金拾五錢

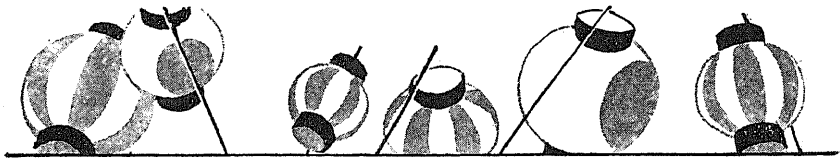
東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際 (四版)

定價金壹圓
送料金六錢

幼兒の教育 (月刊)

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢
一ケ年 金四圓貳拾錢 送料共



第三十八卷 幼 兒 教 育 第 十 號

—(次 目)—

口 繪

卷頭(彈力)……………倉橋惣三(一)

幼少時における民族優越性の獲得……………森川正雄(二)

消化の話……………藤本薰喜(四)

鮮筆一話一詠(上)……………葛原しげる(八)

漫筆……………築添正二(九)

偶 感……………及川ふみ(二六)

内臺幼児を保育して……………川西久子(二九)

本島幼児保育の立場から……………佐竹花(元)

入選童話

貞夫ちゃんとお太鼓……………真木喜久子(三)

観察の本ミ、唱歌の本ミを出したについて……………倉橋惣三(三)

ハイデイ——ヨハンナ・スピリ原作……………津田芳雄譯(三)

幼稚園保育に於ける時局的反省の問題(二)……………倉橋惣三(四)

全國圖書館協會推薦優良圖書

幼兒心理學

恩賜財團愛育會
 兒童教養相談所主任

山下俊郎 著

四六判美裝四三〇頁
 定價 二・五〇
 送料 一・四〇

我兒の幼時を大切に
 することは彼の一生
 を光輝あらしめるこ
 とである。

本書は現代兒童心理
 學研究の成果を育兒
 の實際に適用した稀
 な良書である。

本書は一歳より七歳に至る幼兒の心理學を親切に、平易に解説した
 るものである。特に幼稚園兒童については意を用ひ、玩具のえらび
 方、あそびせ方、遊戯の特徴、あまへ言葉
 の直し方等、保姆の日常必須の問題や事
 項が、最近の心理學的研究を基礎にし
 て、きはめて實際的に説明せられてゐる
 幼稚園の教育上保姆のなやむ問題はここに
 科學的な立場から完全に説明せられ、毎日の保育は
 自信と安心に充ちて、楽しく遂行する事が出来る。



★序論 乳兒の心理 新生兒・感覺生活・智能の芽生え・乳兒の心理的特徴
 ★内 幼兒の心理 運動能力の發達・言葉の發達・空間・時間・數の觀念・記憶と
 注意・思考・創作・情緒生活・好奇心と興味・社會性・遊び・習慣の持つ意義・道德
 的發達 幼時の精神検査 精神検査の概観・現行の幼兒智能検査法・検査の結果
 の表はし方とその意味・精神検査に對する態度 結論 就學可能性の問題 附録文獻

電話九段一五一三(4)
 振替東京六五五番

嚴松堂書店

東京市神田區二丁目二番



第一着

幼 兒 の 教 育

昭 和 三 十 年 十 月

弾 力

椎の實が落ちる。ボンミ音を立て、地を打つて跳ね反へつて。栗の實が割れる。いがを破つて梢に跳ねて。草の實が飛ぶ。莢を裂いて、空を切つて。みんな自分の力、餘る力である。みのるきは、秋の木の實、草の實では、強い弾力の持主であることである。秋の野も山も、この弾力の小粒の持ち主でかちん／＼張り切つてゐる。

幼児が馳けて來てぶつかる。コッソミ音でもしそうだ。そうして自分で跳ね反つて飛んでゆく。幼児達互の間に、言葉が跳ね反へる。手が跳ね反へる。目がぶつかる。肩がぶつかる。争ひじやない。戦ひじやない。勿論惡意の反撥ではない。たゞ弾力なのだ。弾力ミ弾力ミの快よい、怡しい觸れ方なのだ。幼稚園は今、この弾力のかわいらしい持主でびん／＼張り切つてゐる。見てゐてびつくりさせられる程に。こつちまでおのづミ弾力的にさせられる程に。

(倉橋惣三)

幼少時に於ける民族優越性の獲得

— 國民童話の價值 —

奈良女子高等師範學校主事 森川正雄

三條、岩倉、木戸、西郷諸公、續いて伊藤、山縣、乃木、東郷といふ様な文武の英才俊傑、また女性では野村望東尼や奥村五百子といふ様な獻身奉公の烈女たちを始として、最近六七年、我が帝國の隆昌のために大小幾萬千の愛國者たちが、表に裏に、非常の活躍をしたのであつた。さて世間一般の人達はみな彼等の大人時代の輝かしい業績を讃仰することを知つては居るが、併し彼等の幼年時代のことを思ふものは少い。花の盛り、秋の實りは人の目に映り易いが、萌芽の時期、苗木のまきのことは特殊の人の間にのみ注意せられるものと見える。彼等偉人たちはみな悉く悪太郎時代を有し、飯事遊びの時代を有して居たのである。今こゝに彼等の幼年時代における國民童話の影響の如何様であつたかを推測して記して見る。

彼等は母の懷にあるまきに、又父兄師長の膝下にある時に多くの物語を聞かされたのである。彼等は桃太郎の話聞いては自己を桃太郎だと思ひなし、日本武人の勇氣が我が身のうちに奮ひ起るを感じた。猿蟹合戦を聞いては弱き正義者に味方して、強き不義者を打懲すことの俠氣に共鳴した。又、舌切雀の話を書いては、助けなき者を愛護し、其の不幸を憐み、之を慕ひ求め、又食らざるの寡慾を善いと思つた。また進んでは、天の岩戸の御神樂のこまや、因幡の白兔や、龍宮城のお話や、八岐の大蛇や金の鴉の昔話をきいた。さうして太古の神々の御偉徳を御盛業を崇み仰いだ。又義経や、時宗や、正成や、秀吉なきの話を書いては武勇、愛國、誠忠、智略といふやうな父

祖傳來の民族精神の脈搏つを感じたのであつた。彼等は目を輝かし、耳をそばだて、息をひそめ、固唾を呑んだ。時には小さき胸の高鳴るを覚え、唇をかみ、眉をあげ、拳を強く握りしめてゐた。お話が済むと大きい息をした。それと共に再び自分達の小さい子供の世界に覺め返るやうに思つた。早く大きく成つて英雄的活躍をして見たいと願つたに相違ない。かくて彼等は年々共に是等の國民性を發揮せしめゆき、遂に實際社會に立つに及んで之を實現し得たのである。

すべて何れの國民たりとも、その國民性を獲得することに於て、決して俄に一時に之をかち得るものは有り得ない。個人の能力といふものは長年月の間に徐々に養成せられねばならぬからである。尤も、特殊の事情の下にあつては、技術の速成といふ如きことも行はれぬではない。併し、これまでも既に築かれたる一般的なる能力を基礎とし、資本として速成を行ふのである。此の基礎なき速成は、たゞへ外觀は完成に見えても、實際には效率乏しきものになりたることを免れない。況んや國民性といふが如き深奥の資質、日本魂といふが如き死生一如の膽力を中心とする國民性に至つては決して一朝一夕に養ひ得られるものではない。

今の幼稚園では如何なることが行はれて居るのであるか。何處の幼稚園でも幼児らは皆かの偉人英雄の幼少時代と同様に、日本固有の國民童話や歴史談を聞いてゐるに相違ない。今日の幼稚園児は又この上に新聞紙やラヂオによつて戦線の勇士の武勳や銃後の守の奉公美談を豊富に傳へられてゐる。其ればかりではない、今日の幼児たちは家庭の内でも外でも、非常時における國民緊張の空氣を呼吸してゐる。かやうに環境や材料の上から言へば今の幼児たちは偉人英雄たちの幼少時代よりも遙に多くを恵まれて居る言ふべきである。然り、實に今日は國民性の涵養に於て絶好の時期だと言はねばならぬ。

さて又、此に最後に、保育者自身の側に於て深い反省を要する事柄あることを忘れてはならぬ。それは何事を指すかと言ふに、此の恵まれたる良機會をもちながら、果して能く、今の保育者たちが彼の偉人傑士の父母長上らと同様に感激と教化を其の幼児たちに與へ得るかといふ點である。

消化の話

藤 本 薫 喜

四

爽快な秋が訪れて來まして銃後一段の緊張を覺える折、ハイキングやラヂオ體操や其の他の運動が體位向上の爲に一層盛んに奨励されてゐます。さらでだに食欲すゝむ秋でありますから、私共は食欲にまかせて食べ過ぎて腹を悪くする事が多くなりませんが、各自によく注意してより健康になり國策の線に副ふ様に努力致しませう。私共の食べた食物が如何なる運命をたぐるか、主として消化に就いて述べて見ませう。

木や草は水に溶けた極く簡單な成分を根から吸収して葉で空氣中の炭酸瓦斯と化合させ、糖類、脂肪、蛋白質等を作り出します。處が人間は空氣中から酸素を吸入しますが、それは身體の中で複雑な成分を簡單なものに分解するためには使はれるのであつて、木や草の様に極く簡單な成分から複雑なものにするには用ひられず、かりに用ひられても極く僅な量なのです。でありますからさうしてもある程度まで化學的に出來上つてゐる成分を取入れなければいけない譯

なのであります。その化合物の一例が皆様が皮下注射で御承知の葡萄糖です、脂肪酸とかグリセリンもさうですし、強壯劑で有名なアミノ酸等も亦その一例です。之等の成分を吾々が身體に攝り入れる方法として植物や、動物を食べる事が最も近道であり能率が上るのです。で自然食物としてそれ等のものが選ばれる事になつたのであります。そこでさうして消化をしなければならんかと言ふ問題が起つて來るのですが、人間が牛肉を食べて吾々の身體の肉が牛の様な蛋白質になつたり、豆を食べたために豆の様になつたりしては困ります。私達が攝取する食物中に含まれてゐる蛋白質、脂肪等は皆人間の身體を造つてゐる處の成分はその物理的、化學的性質が全く異つてゐるのです。詳しく謂ひますれば植物性蛋白質であります大豆の蛋白質は、外観よりして既に人間の肉とは異つてゐますが化學的性質も異つており、更にその蛋白質を造つてゐるアミノ酸の數も種類も非常に異つてゐるのです。動物である牛肉でも魚で

も同様で、脂肪でも人間のこ牛や豚のこは自ら別種のものなのであります。随つて人間が食物に含まれてゐる栄養素から自分の身體を構成するためには各成分を稍々簡單な化合物、即ち前に申しました葡萄糖、脂肪酸、アミノ酸等に一度分解し、その内から吾々の身體の原料になるものを取捨選擇しなければならぬのです。それを集めて身體の成分を造り上げる事が出来るのです。今お話した稍々簡單な化合物にするこ云ふ作業を消化器が行ふのであります。消化器の役目を職業に譬へますと丁度建築取毀業に當ると思はれます。色々の建物を毀して土臺、柱、壁、建具、梁、瓦等に分解して置く、するこ血液こいふ運搬屋が來て運んで呉れる、その内の必要なものを寄せ集めて新しい望む様な家を建てる譯です。この建築の方は肝臓や筋肉や其の他身體内の組織が各々好きな様にやつて呉れます。そこで建物を毀した場合に材料が餘り大き過ぎて運搬屋のトラックに積めない様では洵に困る。さうしても恰好の大きさ迄にしなればなりません。そこで其の恰好の大きさは即ち水に溶ける態を意味するのであります。消化作用を別の言葉でいひ現はすこ水に溶ける態こする事であり。之を胃や腸から血液、淋巴液にこり入れるのを吸収こいふのであります。新鮮な味覺をそゝる生瓜、ナス、枝豆、莢豆、南瓜等は何れもビタミンにも富んでゐるに實に此の時節の天與の恩恵

であります。處がこかく之等の野菜は消化不良を起し易いのに困る。その多くは生で食べたり、漬物こか軽く煮た程度の生に近い狀態で食べたりします。洵に結構ですけれどよく嚙まなければなりません。野菜類は一般に消化液が浸み込み難く、大きな塊りですこ中々消化し難いものです。溶けて了はぬこ胃から腸へ送り込まれぬため大きな塊は胃の中に永く残つてゐます。胃の働きの弱い人こか、小さな子供等ですこ丈夫な人よりも猶一層永く胃の中に残つてゐるためにその塊りが腐敗したり、醗酵したりして胃カタルを起す事になり下痢を起すし、そうでなくても胃を愈々弱くするのであります。野菜類はよく嚙んで食べる事之が一番大切でせう。この咀嚼する事が口の消化作用の一番大切な働きです。バナナや果物で消化不良を起すのは大部分はよく嚙まない事に原因してゐます。特にバナナこ柿は大きな塊りですこ消化液が浸み難いものですからお子様方にはよく注意して下さい。肉類は一般に餘り嚙まなくても胃で充分に消化して呉れます。肉類は餘り嚙み過ぎた結果汁ばかり先に咽喉を通つて了つてスルメの様にかスばかり口の中に残り吞み込めぬ様になるため肉が食べられぬこ云ふ子供さんを時々見ます。以ての他です親御さんの間違つた教育こいはれても致し方ありません。但しイカ、タコ、貝類は比較的よく嚙まねばなりません。又サシミを澤山食べる時に

はよく嚙む様に御注意下さい。牛乳を嚙んで飲めよ云ふこと笑はれますがラツパ飲みは感心しません。牛乳の中にある蛋白質カゼインは唾液とよく混和してゐる胃の中で凝固

する場合極く軽い細い固りになり早く消化されます。ですから飲む時に口の中でよく唾液が混る様に軽く嚙んで飲む結構です。御飯をよく嚙んでゐるご甘くなつて来る事を御経験なされた方が多いと思ひます。あれはプチアリンミマルターゼとさいふ二つの酵素が澱粉に働いて甘い葡萄糖を作つたためで、酵素が少く働きが弱いためよく嚙んでゐないご分らず了ひで終る様です。口の消化作用は咀嚼して食物を細かにしたり、適當に濕りを與へたり、冷い物を温かくしたり、熱いものを冷したり極く僅さいへ酵素が働いたりする事にあるのですからお忘れないう様に。

獸肉、魚肉、豆等の蛋白質を消化する事が主な働きであつて脂肪も少しばかり消化を受けます。澱粉類は殆んど消化を受けません。肉類、豆類の消化はペプシンとさいふ酵素が働き、脂肪にはリパーゼが働きます。この他に胃液には鹽酸が非常に多量に含まれてゐて、之が食物の消毒を行ひ他方に於ては肉の固いスヂや皮等を軟かにし、消化酵素の働きを容易ならしめてゐます。此の働きのためスヂや皮は非常に早く胃の中で溶けて了ひ、反つてバナナの固いの方が遅いといふ結果になるのです。細切れの固いのは平氣で呑

み込むべし、餘り嚙むべからず。スジや皮は吾々の皮膚の艶をよくし毛髮の榮養として最も重要なものです、はき出すなごは以ての他です。

蛋白質、脂肪を消化する二つの酵素は熱いものごか餘り冷い物には働きがにぶくなつて了ふ關係上食物は炊き立てや、焼き立ての熱いものは感心しないのです。亦夏なごの暑い時には誰でもつい冷たいものが欲しくなつて來ますが、水で冷した餘り冷いものはペプシンの働きをにぶらせるのみならず、胃の粘膜の働きを弱くして消化作用が充分でなくなり胃カタルの原因になつたりします。胃の消化作用の化學的方法は以上の如くで肉ご脂ごが消化を受け、野菜類に多い澱粉類は殆んど消化を受けません。そのために早く胃を通過して腸で消化を受け様ご努める關係上澱粉類を主成分とする御飯やウドン、ソーメン、ソバ等は胃の中に留つてゐる時間が短い即ち早くお腹が空き反對にゆつくり消化作用を受けねばならぬ肉類や脂肪の多い食物は胃持ち即ち腹持ちがよい事になります。胃の弱い方は肉類や脂を一度に澤山食べぬ事は勿論胃カタルを病つた後は暫時肉や脂氣の食物を避ける理由が御分りになつたご存じます。世間では腹持ちが悪い即ち胃を早く通過する食物を消化がよいご考へる傾向が多い様ですがそうごは限られませんが、ヒマシ油は消化が最も良いといつたら大變な事になります。夏

を表象する食物、寒天、トコロ天は下痢を起させる王様でヒマシ油に似てゐます。この他胃の働きとしては食べた食物を貯藏してゆつくり消化作用を受けさせ、少しづつ腸へ送つて腸の消化をよくさせる働きも見逃せぬ動功です。

胃から腸へ流れ込む食物は殆んど液體に近い状態になつてゐます。小腸は消化の最後の仕上げをする所でありまして先づこゝへは肝臓から膽汁が流れ込み脂肪の消化を始めます。又一方脾臓から強力な消化液が来て、胃で或る程度迄消化された蛋白質・脂肪・消化をまだ受けぬ澱粉類を消化するので、トリプシン・ステアアプシン・アミロプシン等の消化酵素が専ら此の働きをしてゐます。更に小腸からも最も強力な働きの酵素を分泌して大部分のものを分解し、同時に吸収を行ふ事になります。

小腸の終りに近い部分に大腸の中には數百億個に上る多數の微菌(通常は腸内細菌といつてゐます)が生棲してゐて、水分が豊富に含まれてをり適度の温度が保たれ、アル蛋白質である等の條件が揃つてゐるため消化されなかつたカリ性を腐敗させ分解します。腐敗が餘り強く旺きなる消化不良の中毒を起し易いので之を防ぐために同時に植物性の纖維素の醱酵が盛んになり、此の兩者が相合して大腸の調子を保つてゐるのであります。毒麻疹といふ身體中の皮膚のカユい病氣は大腸の中で蛋白質の腐敗産物が出來て

吸収され、血液や血管に弱點を與へるためでありますから食物に最も注意を要します。人によつて異ひますが、タコ、イカ、鯖、鰯、鰹、カニ等を食べると起る場合が多い様です。毒麻疹の出る人の食物に就ての注意は第一に原因となる食物を食べぬ事、第二には纖維の多い野菜類を食べて通じをよくする事です。猶煮たり焼いたりしたものゝ生のものゝ、どちらが消化がよいかを概括的に比較して見ませう。一般に野菜類、貝類は煮たものが消化がよく、肉類は生のものも熱のかゝつたものも大した違ひはありません。

以上の作用を通攪します。石臼を想ひ浮べます。口は大きな臼で胃がその次、腸が一番小さい石臼に當ります。大きな石でも大きな臼から小さな臼へ順序よく次々に壊して行きますれば臼も壊れないし、細い粉もうまくつくれます。が小腸といふ小白に大石を投げ込めばたちまちにして臼は壊れて了ひます。又たこへ石は小さくても餘り澤山投げ込めば同様の結果になります。此の理を注意すれば胃腸を悪くする事を可成り樂に避けられるのではないでせうか。よく咀んで腹八分目昔から言つてゐる俚言は頭の中でよく咀嚼する必要があります。

近來白米を廢して七分搗米や胚芽米が宣傳され一般に用ひられる様になりました事は大變結構な事で、國家民族の

(以下一八頁へつづく)

鮮滿漫筆 一話一詠 (上)

八

葛原しげる

1

この非常時ゆゑに、兒童尊重の話をしに來てくれ。兒童愛護の事が、忘れられ易い戦時ゆゑ、全滿洲の母ミ、小學校の先生方へミ、又、一般の人士へも、約二ヶ月は話して廻つてくれ、ミ、滿鐵から頼まれて、悦んで出かけましたのは、四月二十八日の夜でした。此の日の午後二時、私は、J O A K から、同じ様な目的の談話を、母の講座に放送したのも、此度の講演旅行にミつては、善い首途でもありませんでした。

大連に上陸するか、安東から入國するかとの間には、朝鮮の方々にある拙作校歌を聞きたくもあつたので、「安東から」ミ返事をして、釜山に上陸。大邱にも、大田にもありませんすけれど、それを聞いてゐる日數が、さうしても取れなくて、すぐ京城に入りました。

その前に、「成歡」さいふ驛を通過しました。あゝ、「成歡」の名は、日清戦争の時、幼童であつた私達には、今の「蘆溝

橋」の名のやうに、鋭さく耳底に響いた名です。そして、成歡さいへば、すぐ、「松崎大尉」の名が思出されます。のちには、「玄武門」を破つた「原田重吉」の名もありますが、硝煙の中に軍刀を振翳して突撃する松崎大尉の勇姿は、繪ながら、幼時の私達の眼底には、強く、やきつけられて、今に其のイメージが残つてをります。

成歡は 日清役に覚えし名 勇ましかりし
松崎大尉

げに、幼時の印象は、四十餘年を経過した今、なほ、四十餘年前のその當時のやうに、新鮮なる感激を、旅する身にも覚えさすのでした。幼児にミつては「あらゆる印象が、一生を支配すること、今更ではないのですが、小さな驛、成歡に來て、乗合はす人々の中に、恐らく、日清役當時の幼児であつたらう年輩の人を探し出して、その顔を讀まうとしたことでした。驛のすぐ後の丘の上の木立がくれに、

その記念碑は、ありました。急がぬ旅なら、下車して、丘上に立ちましたらうものを。その記念碑も撫して見たでせうのに。

2

日の丸の旗は、それこそ、白地に赤く染め出した鮮かさ、まことにあつても目立ちますが、朝鮮を走る汽車沿道の、この小さな部落にでも、家毎に高く揚げてありました。

朝鮮の田舎家は、土の屋根、または藁の屋根、低い建て方で、屋根棟は、山の形でなくて、鈍い曲線が見えて圓いのです。さうした棟の家が、不規則に幾軒か、十幾軒か並んで一部落を成してゐます。その何の部落でも、家毎に、日章旗を掲げてゐるのです。旗日でも何でもない日ですのに。

それは、いふまでもなく、軍用列車を歓迎歡送しての國旗です。私は、此度の旅行に、文部省から、滿洲國その他に於ける日本語教授の視察をも囑託されましたので、朝鮮でも、朝鮮兒童のみの小學校に寄つては參觀しました。そして、今や、朝鮮では、日本語の事を、日本語さひはず、内地同様、たゞ「國語」さいつてをり、運動場でさへ、朝鮮語でなく、國語で、あちらの子供同志に話させてありました。それほごですから、全く、内地の、朝鮮の、さひはず、全く無差別に、立派な日本人の心をもつて、内地から、

滿洲各地へ、出征（？）する軍隊輸送の軍用列車に對して、國旗は掲げたのです。私共は、その心持を、明確に覺り得ないので、幾多の失敗をしてゐるのです。

今春のこゝ、ある有名な婦人家庭雜誌、それは、鮮滿支は勿論、布哇へも、アメリカへも、毎月百數十萬部を發行してゐるのですが、毎號巻頭に、繪入で、時局に關する美談を一二頁づゝ讀切にして掲げてをりますので、平素は吝嗇家として隣人からも善く思はれてゐなかつた朝鮮人が、三十圓の國防獻金した事を、隣人も驚き、係の人々も驚いて悦んだま報告的の記事さしましたまころ、その主人公には無關係の、在京の一朝鮮人が、

「我々同胞は、今や、内鮮の區別なき毛頭ない。今は、日本國家の非常時であるから、この三十圓獻金者のある事は、不思議ではない。もし、この獻金者が、本來の内地人、日本人であつたら、此の記事にはならなかつたらう。朝鮮人であるが故に、特種の記事にするまは、何事ぞ。我々は、全く、朝鮮に生れ、朝鮮人を兩親さひしてゐるけれども、非常時に處する考へ方は、全く、無差別であるのに、インテリ級である此の雜誌に於て、此の差別感から生れたる記事を見る事は、これが百數十萬もの發行雜誌であるが故に、特に、心外千萬である。」

ま、涙を流して、訴へたまきいた。

さもあらう、さればこそ、今、私は、朝鮮の僻地に於て、此の日章旗を見るのであつた。しかも、さうした部落には、可愛い幼児が、軍用列車ではない私達の汽車へ向つても、たまたまた小さな國旗を打振るのさへ、目につくのでありました。

圓棟の葦屋根低き家毎に日の丸高くつゞく村村

竹の旗竿は、低い屋根より高いのが多かつたのです。

3

幼児は、どこでも、いつでも、純真そのものですから、可愛い、美しく特に、朝鮮の幼児は、その服装が、可愛いく美しいです。

一體に朝鮮では大人でも、純白の麻を着てゐます。百姓の野良着にも、白麻を見ます。しかも洗濯好ですから、見るからに清楚な服装をしてゐます。それが幼児になるまで、上衣とスカートとが別色です。多くは、上衣は白、下は黒ですが、それは、珍らしく、眞赤なスカートをはいてゐるのです。所は新村驛を出て直ぐの岡沿のみち、岡には松がつゞいてをり、路は、少しく曲つて畑の中に通じてゐます。そこを行く母子づれです。母の服装は勿論純白そのものであるに、幼児は、眞赤なスカートをはいて、手をひかれて

ゐます。明るい眞晝日に照らされてゐる松林をバックにして、白衣の母と、赤スカートの子とが、靜かに歩いてゐるのです。何となく鮮やかな色の配合であつたでせう。私は、おのづからにして、たま／＼まごまつた此の晝題を悦んで見直した時、此の母子は、立止らうともせず、汽車を見ようともせず、歩み行く歩調を少しも變へず、極めて自然に歩いてゐるのです。幼児の目には、勿論、わが汽車も見えなかに相違ありませんけれど、母が立止つて汽車を見ようと思ふから止らぬのか、母は、我が子が、立止らぬから、立止らぬのか、二人とも、何物にも影響されぬ歩みをつゞけてゐる其の自然味が、うれしいこころでありました。

スカートは緋の幼な兒が新村しんそんの松林ゆく白衣の母と

この新鮮な美しさは、恐らく、土地の名が「新村」といふ事によつても、倍加されましたらうか。よい名よ、新村。

4

これは、また、幼児を脊負つてゐる女——脊負ふといへども、朝鮮の脊負ひ方は、日本のとは違つて、ひきく低く落して負ふのです。脊は負ふのでなく、腰に負ふともいひませうか。だから、「脊負ふ」といはないで「腰負ふ」とい

ふべきところ。だから、脊中ではなく、腰に負はれてゐる幼児に乳を飲ます爲には、母は抱き直す事もなく、幼児は腋の下から首を伸ばして、乳房に吸ひつく事も可能であるらしいのです。婦人の上衣は極めて短かくて、僅かに乳房を隠してゐる程度ですから、胸元を開いたりする勞はないらしいのですから。

さて、朝鮮婦人は、内地でも島の婦人がするやうに、品物を頭に載せて、直立の姿勢で歩いて行きます。その習慣が婦人に多いからか、誰かゞ謂ひました。「朝鮮では腰の曲つた老婦人に出會つた事がない」。ところで、この婦人は、しばらく汽車を見て立つてゐましたが、何の表情もなく、只、見て立ちつくしてゐるのです。脊の子が重く、頭上の水甕も重かつたからでせうか。それにしても、何さいふ無表情でせう。汽車が来ようが、走らうが、自分は、子を負うて、大きな水甕を頭にして、歸りゆくべきわが家まで歸りつけばよいのです。他には何の考も何の用事もないのでした。

子を脊にし大水甕を頭にし汽車見る女事も
無げなる。

朝鮮婦人の洗濯好は、既に述べたさほり、如何にも洗濯好であり、また洗濯上手です。水は、たつぷり鹽に汲み入れてから、洗濯するのでなく、洗濯物に水を浸しては、棒で叩くのです。最近評判の『綴方教室』にも、正子の家の裏の井戸のほさりの水溜で、洗濯物を積んで棒で叩いてゐる鮮女がありました。全く、あればかりの水溜りでも、汚なしさしないで、その水で、洗濯してゐるのです。しかも、正子が何さわめかうが正子の母があんなに、いら／＼してゐるやうが、振向きもしないで。

しかし、本来の洗濯は、川の流に集つて、幾人もが竝んでしてゐなくては、女らしくない程、皆よく川岸で洗濯するので。中でも谷川の水は、多く清澄ですもの。しかも、その洗濯物は、必ず白いのに限つてゐるのか、と思はれる程、きこで見た洗濯女も、いつ見た洗濯女も、白いのを、叩いてゐました、勿論、彼女たち自らも白い衣を着て。

谷あれば 谷に水あれば女あり 女は
白き衣洗ひあり

こは、ちぎ、いひすぎですけれぎ若し、幼児を連れての旅だつたら、

「なぜ谷には、水が流れてゐるの。水があるさ、なぜ

女がゐるの。女は、なぜ、洗濯するの。洗濯は、なぜ、白いものばかりするの。」

「怪しむのであつたでせう。そして、さう問はれたら、何ご返事すべきものでせうか。」

6

耕地整理の出来てゐるころ、出来てゐないころもある水田つゞき。走る汽車の窓から見渡して、目に入るものは、ひよろ／＼伸びたポプラの並木です。全く、ポプラは、ひよろ長いこゝです。内地のたつて、ポプラは、長いにきまつてゐますけれども、朝鮮のポプラのひよろ長振は、チビカルです。ポプラの標本、ポプラの特徴、ポプラのポプラらしさ。

わけて、まだ春末のこゝ、山々の木々は、芽組みばかりはしてゐても、まだ葉を出さず、冬枯のまゝに見えてゐる雑木山ばかりなので、木らしい木は、ポプラばかりでした。

半島の山の木々いまだ伸びざれば目立つは
路のひよろ長ポプラ

鳥なき里の遍幅ではないけれど、木は元來は山にあるゆゑに、ふさはしいのに、路傍にありながら、いかにも瘦せて、風にも堪へ難う、細々危なつかしいのに、

「遠からんものは目にも見よ、近からんものは音にも聞け、おれこそは、半島の特産として名も高き、せいたかのつぼのひよろ長ポプラ。」

さばかり、足に爪立ち、首のばし、痩せ腕ながら打振つて差し上げたか：：力無ちからなのその腰つき少しの風にも、足も怪しく、全身、ゆらり／＼しそれほぎではないけれど、中には、竹にしては、曲つてゐるよ、ミ、目を見張らすほぎのもあつて、珍らしいこゝです。幼児が見たら、又問ふのでしたらう。

「どうして、ポプラばかりなの。
どうして、ポプラは、もつこち、太くならないの。」

7

一人旅のつれづれには内地でも驛の名も、その附近の自然を見比べて、なぜ、その名があるか考へ合せて見るのも面白いこゝですが、朝鮮の水原すわげんあたりには、水田が多くて、ひさり、ほくそゑんだこゝです。中でも「一山」さいふ驛を通つて、すばらしい名ださ悦んだこゝです。勿論、山さいふほぎの山でもなく、また、岡つゞきのこゝにも、特別高い岡があるのでもなく、みな、大した特徴もない平々凡々の山なみ續き、少くも汽車の窓からは、さう見えたので、その「一山」の名の由來を問ふ程の熱心も、地圖か

書物かについて調べて見る程の必要も、今はなくて、唯よい名、面白い名を以てのみ、ノートしました。そして見るまでもなく見た驛舎の軒下に、また、プラツトフォームの日あたり、小さな鉢植が三つ四つ竝べてあつたのが、目に泌みました。

「盆栽」は凡そ人の昇降の多い「停車場」には不似合な閑文字です。しかも、みな、よく花が咲いてゐるではありませんか。由來、盆栽は、御隠居様の暇つぶし、こも考へられるのに。内地にしては、紀州の高野山への電車の中で、さる小さな驛で、紫の花、紅の花、盛りませて、これは、地面に植えてあるのが嬉しかつた事がありますが、これは、盆栽です。きつこ、事務機の端に、据えて眺める善良なる驛長さんは、部下の机の上にも、置き替へてやるのでせう。あんな老驛長が山縣には居るのやら、見廻すに、きつこにも、善良そのものゝ様な老いたる人は見えなかつたのが、また別の意味に於てうれしい事でした。木を愛し、花を愛する人は、きつこ、人生を愛する人です、公益に心して、日も夜も、乗る人降る人を愛し、驛の仕事を愛する人です。この程職に一生を注ぎ込んで、おちついてゐる人、相違ありません。

一山は驛の名にして盆栽に咲かせ

たり若き驛長

花の名も、その色もは問ふなけれ。

8

朝鮮の山に、里に、殊に、野に鳥もるませう、雀もるませう。しかし、汽車に乗つてゐては、それらの小鳥は、もし居ても目に入らず、氣がつかないのです。その上、鳥も雀も、もし居ても、嬉しくも珍らしくも、ありません。唯、極めて稀に、何の鳥か、何の木かに巢をかけておぐが目につくばかり。巢があるからは、きつこ居るであらうに、鳥が動いてゐないから目につかないのです。ところが、さる里の水田に、きよさん立つてゐて、これも動かないのですが、たしかに一羽鳥の形をして、白いのが、よく見ると、嘴の長いのが立つてゐるのです——かねて聞く、朝鮮には鶴が野生で居る、ミ。しかし、幼児は、鶴は、公園でも、繩張の中にをり、動物園の金網の中にあるミのみ知つてゐるのですから、野にをるあの鳥は、何、ミ問ふにきまつてゐます。

はねじろ くらほしなが
羽根白に嘴 長の鳥は何 いミのきやかに水田 すんてん
に立つ

脚も長いのにきまつてゐますが、目につきませんから、さりあげないのです。空にも一羽、高く、喜んでゐました。乗合つた内地人は、口々にいつたことずす。

「鶴ですわね」

「鶴ですよ」

しばらくするに、

「朝鮮の空には、鶴が飛んでるんですね」

「いふ人があるから、

」田圃にも下りてゐますよ、あそこに、立つてゐますよ」
と、いつてやりました。そして、

「のんびりしてゐますね」

さいつたら、一三人、笑ひました。その笑は、何が、のんびりしてゐるさ聞いたのでせう。私は、鶴が、のんびりしてゐる、さにはあらで、朝鮮の空氣そのものが、のんびりしてゐる、さいつたのでしたが、さう聞いて、笑つたかきうか、少し氣にかゝりました。そして、次に私は、東京澁谷の友人の宅の應接間に、その友が朝鮮で高官をつとめた時代の、何かの紀念に、何か會から贈くれたさいふ剝製の鶴二羽が、いつも、竝んで立つてゐるのを思出して、今、空に見えなくなつた鶴も又、さつきの水田の鶴も、いつ、さこの應接室に、剝製にされて立つ運命の下にあるさも知らでゐるだらうと思ふと、ひきり、心の中で、笑ひそこね

ました。乗合つた人は、窓の外を見つゞけてゐましたが、「なるほご、幾羽も、下りてゐますねえ。へえさすがに朝鮮ですわね」

さ感心してゐました。

野生の鶴さいへば、六七十年昔、私の郷里の家の門前に先年まであつた大松に、鶴が飛んで来てはさまつたのを、若い時の父が、種ヶ島で討ち落して、その羽毛を、母が織り込んだ緑色の羽織があつて、私は、少年時代に、一二年間、着せられました。するに、村の友人さもは「一本くれ」「一本くれ」さ、織り込んであつた鶴の羽毛を、手にく、抜きさつては、フーさ吹いてさばして、追つかけて遊んだことあります。のち、六つか七つ年下の妹が、それを着せられた頃には、もう、羽毛は、殆んさ無くなつてゐるた事なさ思ひ合して、私自らも、いさ、のんびりさした汽車の中でありました。

9

白装束の農夫、女農夫、しかし、若いさは見えないのが、只一人、おそらく黙々さして蹴をさつてゐるのであらう彼女は、紅一色の頭巾の大黒暗めくのを冠つてゐるのは、繪にならないでせうか。時は春。よく晴れてゐる日でした。

耕すに紅の帽 美しく春日の畑に白衣の女

10

滿洲では、畑を耕す一つの仕事に、馬三頭、時には子馬も加はつて四頭で一挺の農具を引張り、農夫は一人で馬をも使役してゐても、すぐ後につゞいて、種子を蒔くもの、又、それを脚先で埋めるもの、そして四人目には、子供が従いて歩いてゐるのさへあつて、珍らしいのですが、朝鮮で、一つの仕事に、複數で助勢してゐるのは、鍬が大きくて重いから、でせう。太い繩を二本つけて、前から二人で引張つて、放す時、ぐつと地面に打ち込んで土を返すのですが、深く打ち込んだ太い鍬を、地面から引き抜くのが、非常に重いから、前から繩を二本もつけて引つ張らせるのです。これは、なるほぎね、です。低い溝から水を汲み上げるのにも、上の田にゐる若者か、女か、繩で引張つて、下にゐる農夫の手の桶の仕事を易からしめるのです。水汲さいへば、ブリキの罐の左右に二本づつ、長い繩をつけたのを、二人かなり遠く離れて、左右の手に持ち分けて、調子をつけて、フラーリ、罐を振つては、樂々、水を汲むリズムミカルな勞作も、珍らしいものでした。あれには、水汲み唄もほしいと思ひましたが、この太い鍬での土ほりかへしには、唄どころではありません。殊に、農夫、それは、

額に長々、白い髻を豊かに貯へて、大人めく風貌も上品な人柄、いふまでもなく、白衣をつけてゐました。

太鍬に太繩二筋つよく引かせ土かへしをる

白髻農夫

11

もさ／＼そんな深い考があつたのではなく、只、見たまを詠んだのでした。それを、

「面白いですね、ふーん、松楓はなるほぎ、文化の進んだ民族で、雑木や、草は、——ふん、面白い。五族協和さいふけれぎ、當分は、協和でよくて、競争させませんさね、なるほぎ、面白い表現ですなえ」
さ、いたく感心されて、作者いさゝか、たじろぎました。それは、朝鮮でなく、吉林で、さる大人、（これは本もの）から書畫帖を押しつけられて、困つて、書き習はぬ毛筆をこつて、よごしたのが、

松楓落葉松を植ゑませて伸びきそはすか雑木松山

の一首。もさ、これは、五族協和の滿洲で詠んだのではなくて、朝鮮の汽車路に見えた、何處かの實景、否、實感

なのです。松でしたが、楓や、落葉松は、まだ苗木を植ゑて年も経たないでゐたので、何の木か、實は明かではなかつたのを、五七五にしなくてはならぬので、「松楓落葉松」をこしてしまつたけしからぬ、歌なのです。只見たまゝといふよりは、思つたまゝなのです。それを、

「さうしても、歌は、このまほり、かくれた意味が豊かでありませぬ、人を動かしませんから、『……伸びきそはすか、雑木松山』面白いですナ。いや、有り難うございませぬ。」

ご自分の書畫帖を押し戴いて、ふくさに包まれて、また、禮をいはれて、くすぐつたいこゝでした。私もいさゝかてれましたこゝ。

12

汽車さいふものは、野中を、一文字に、只走るものご、かうきめてよいのは、驛ミ驛ミの中間で見る汽車です。

汽車さいふものは、大きな荷物でも、たくさんの人でも、積んだり下したり、乗つたり、下りたるする箱の繋がつてゐるもの——ききめてよいのは、驛で見る汽車です。

こころが、野中で汽車が止つたのです、驛ではない所で、長い大きな汽車が、走らなくなつて、急に出來た土手のやうに、畑つゞきの野の真中に、黒々横はつたのですから、

驚いたのは鳥です。何物にも妨げられないで、思ふ存分、畑の植え物に、埋めて施された肥料の美味を、嘴の先で、つゞき出し、掘り返しては、失敬してゐた鳥です。大きな鳥二羽、互に、繩張の範圍をきめて、相犯さぬこゝにして、稍隔つて、働いて（？）ゐるた二羽鳥です。恐らく、夫婦鳥。さつきまでは

「さうだえ。お前の方には、おいしい肥料が埋めてあるかね。」

「はい、掘りさへしますと、いくらも、出て参りますわ。」

あなたの方は、如何ですか？」

「おれの方も、たくさん出るよ。何なら此方へお出で。」

「はい」

ご、極めて圓滿な御兩人、ではない御兩鳥（？）艶々しい漆黒の羽毛の頭。雄は七分三に分けた頭髮でなくて頭羽毛、雌は、カールが嫌で、パーマメントにはしないで能く揃へてある斷髮姿も、きちんとして、でも、おしろいも、おくろいもつけ様のない顔で、紅をさした唇でなく、眞黒い嘴で、今更、汽車に驚いた雄が、

「おい、これは、さうした事だ。走り來り、走り去るにきまつてゐる汽車が、おれ達の領分の中で、止つたぞ」

「はい、きつゝ汽車も、お腹が、へつたので御座いませう。この肥料を、少し、分けて差上げませうか。ね、

あなた。」

「これく、何をいふ。それどころぢやないぞ。これは、おれ達、夫婦を、討ちに來たのかも知れないぞ。それく、人間が一人、二人、また一人、三人も下りたぞ。」

「いえく、おれは、機關手さんさ車掌さんさ、——それから！」

なきく、咄し合つてゐるらしい大鴉。

何事ぞ汽車動かさず大鴉 頭を上げて鳴きかはしをり

こんな事は、たまさかに内地でもありますが、廣いく野の真中であり、大鴉ですから、いさゝか、朝鮮の感じもありませんか。

野雲雀の聲も聞えて鶏の聲も聞えて汽車

さまりをり

これは、全く、内地の気分です。しかし、これも、朝鮮での實景實感なのですけれごも。

13

かなり遠く行く親子らしい老人さ少年だけが、私さ同じ室に乗合せました。老人は、かなりの老人で、少年は十七

八。荷物も多いのですが、風呂敷包の大きいものもあり。現代のトランクもあります。それよりも、その少年の老人へのサービスが、如何にも行届きますので、私は、心に憂めては、時々、見たり、聞いたりしてゐましても、朝鮮語を知らぬ私は、言葉のかけ様もなく、隣席に相竝んで、揺られ合つてゐました。

しかし、さうしても、その親子振の善さが、私をして、遂に、モーションを起させました。老人が、巻煙草にも飽きたらしい。窓外の景色も興なげに、半ば居眠りもし、欠伸びも半分にして、思出しては、言葉少なに少年に話しかけて、すぐ黙つてしまふので、私は、東京驛で、見送つてくれた私の可愛い教へ子の一人から貰つた小さな罐入の、榮太郎の黒飴を進めて、

「東京のお菓子、一つ、如何ですか、お父様へ——」

さいつて、毒味をする意味で、私も一つ口に入れて見せました。するさ少年は

「ありがたうございます」

さ鮮かな日本語でいつて、さて、父に、それを傳へたらしく、改めて、私に向つて、父の返事を通譯して、

「ほんきに、御親切で、ありがたうございませうが、年寄で、齒が十分でないから、固いものは頂けませんから——」。さいふのです。なるほぎ、黒飴は一見小石のやうに固さう

です。實際、噛めば、固いのですもの。そこで、私は、

「しがし、飴ですから、噛まないでも、さけて、おいし
いですよ」

さいふと、又、それを通譯したら、老人は私に笑ひかけま
した。少年は、すぐ、

「では、御親切に甘えて、一つ頂きます。」

と、頭を下げて、一つ取つて父に渡すと、父は、再び私に
笑顔を見せて、それを口に入れた。私は、少年にも進めま
した。

「いえ、私は、よろしいです。私は、よろしいです。」
と固辭する温良さが、私を、また悦ばしましたが、強ひて
一つ進めました。

さて、老人は、しきりに、私に話しかけるのを少年が通
譯して、一時間ばかり愉快に話しましたところ、老人は、天
帝教さかの教主、年は八十を越してゐるのに、私を食堂へ
まで案内して、さて、私より早く汽車を下りる時、私への
挨拶が、極めて、お世辭めかないで、甚だ結構でした。
「鯛の頭も信心から」さきまます。何でも、一つの信仰さな
るに、強大なものになり、眞直ぐにもなるところが、人の
心を打つのでせうか。

いつまでも話してゐるたいに残念を乗りかへ

行きし老教主はや

私は、五分間停車のある驛のホームに並んで一緒に寫し
た寫眞を、送つて上げる事を忘れてゐました。約束を果さ
ないで、日本人に、コーテシイなしで、慥がれては、たま
りませんから。

(七頁よりつゞく)

繁榮上御同慶に耐へません。七分搗米や胚芽米の胚子は一
般に消化が悪いのですがお子様方の大便の中に胚子が其儘
出たからさいつて心配する事はありません。相變らず七分
搗米を食べさすべきです。消化作用をたすける榮養素とし
てビタミンBがあります。これを多く含んでゐるのは穀類
の糠、胚子、ソバ粉、豆類、チシヤ、キャベツ等の葉菜類、
人蔘、ノリ、肉類、特に多いのは酵母で消化管をシゲキし
て消化を盛んにし腸を整へます。特に夏分はビタミンBに
注意いたしませう。

最後に總ての消化吸収作用は精神的な條件により非常な
影響を受けます。楽しく食事をする時には消化液の分泌も
よくなり、消化力もよくなつて來ます。食卓を氣持よくす
る事は非常に大切な事です。

幼児の生活に於ける繪本 (二)

立教大學 心理學研究室 築 添 正 二

十一種に類別した中で、イの童畫繪本を名付けたものの中の(一)は、謂はゞ綜合繪本(三つともよいと思ひますが、内容は單一のテーマでなく、いろ／＼の事柄が取上げられ、案配編輯されてゐるものであります。その童畫繪本のあるものを一年間に發行された十二冊に涉つて、計一七八圖の内容を分類してみます。次の様になります。(表一)

表 1

A	季節的特長圖	30 圖	17 %
B	觀察 畫	47 圖	26.9 %
C	童 話	45 圖	25.3 %
D	童 話	34 圖	19.5 %
E	漫 畫	7 圖	3.9 %
F	教 材	3 圖	1.7 %
G	そ の 他	12 圖	6.7 %

Aの季節的特徴畫は便宜上分離しましたが、内容はBの觀察畫に入れるものであります。このA・Bの觀察畫を名付けたものは、繪が主で、これに簡單な表題的説明がついてをり、子供の觀察に任してあるもので、之が全體の約四十四%を占めてゐます。この觀察畫を更

に次の様(表2)に分類してみました。次に全體の四十五%を占める童話、童話は次の様(表3)に分類されます。

表 2

A	身近い出來事、場面	26
B	未知の可能性の多い 出來事、場面	25
C	動物、植物	9
D	のりもの	10
E	物 語	5
F	そ の 他	3

表 3

A	子供の現實生活に近い 出來事又は現實生活描寫	16
B	現實生活に身近い事物	17
C	自 然	10
D	動、植物、小鳥、昆蟲 (イ)ありのまゝ(ロ)擬 人化	12 11
E	のりもの、その他	13

表2、表3のもので全體の九十%が編輯されてゐる譯であります。これらは表に見る通り子供の生活に身近に親しみのある事件、事物にその主題が選ばれてゐます。觀察畫はその特長として季節的行事、新しい事柄、科學

なごの新知識の觀察注入の目的のものが全體の1/3あります。

次に繪のタイプを分類してみます。

(一)メルヘンの童畫、名付けるものが全體の約四十%。
 (二)自然的童畫名付けるものが約三十三%。この二種によつて大部分が占められてゐます。

(一)のメルヘンの童畫名付けたものは、擬人化された動物、小鳥、樹木、昆蟲なごを描いたものも含んで、多分に空想的な雰圍氣をもつ繪のタイプであります。その描かれてゐる人物、その他のものも特長ある線色によつて描かれてゐます。線は太いのも繊細なものも、判然として居り、色は對照的に鮮かな效果を示してゐます。人物、その他のもの、動きは固定化して、流物性や生々した感じがありません。謂はゞ回轉してゐる映畫のフィルムが瞬間停止した様な印象をうけます。又畫の全體の均合が、夫々自然に大きかつたり、小さかつたり、自然な感じが與へられません。(人物ミ人物、人物ミ背景、人物ミ點描物なごの)一人の人物についてみても、不自然に大きく均合のきれない頭なごが描かれてゐます。

これは搔畫期から圖式表現期に入つた幼兒の繪が、その人體表現に於て殆んど、頭部を過大に描くこごや、一つの繪の内容物の相互間に何の連絡もなく、人物を描いた隣に

それと同じ大きさの花を描くこご、實物の印象も頭の中で觀念化して象徴的に描くこごなご比較して考へてみます。このメルヘン・タイプの童畫は、幼兒の描く繪ミ共通な重心的特徴をもつた繪ミでも云へませうか。このタイプの繪から享ける感じは、如何にも子供らしい繪ミ云ふ感じで、線色の明確な單純さからうける印象は鮮かであります。

(二)のタイプを描く童畫家の代表者は武井武雄氏、初山滋氏なご)

(二)の自然的童畫名付けたものは、前者に對照的な童畫として、全體の約三十三%を占めてゐます。これは一口に云ふと、子供の生活をごく自然に寫實的に、而も重心的雰圍氣を失はずに描いたものです。描かれた内容の形も色も不自然な不調整や對照をもつてゐません。背景も人物や點描物ミ自然に調和してゐます。更にこのタイプの繪は、前者ミ反對に何れも「動き」をもつてゐます。人物もその手足なごが夫々目的に向つて均合のされた統一のある全體的な運動を示してゐます。澤山子供集した場面でも、メルヘンタイプのレヴェー式靜的統一ミ異つて、一人一人が自然な動きを示して全體を構成してゐます。このタイプの繪から享ける印象はゆるやかで、刺戟的要素が少い。これは現實の自己經驗範圍の再現を喜ぶ幼兒前期に適合し、空想的要素の多くなる幼兒後期に對して正確な寫實的效果を

與へるもの云へませうか。(このタイプの代表としては、清水良雄氏、川上四郎氏、本田庄太郎氏など)

以上の分類考察から考へてみますと、このタイプの繪本は幼児期の生活展開の特徴要素を大體に於て一致し、童心について良心的に考究されて、編輯構成されてゐる感じがうかがはれるのであります。

次に蒐集した繪本類の全部A・童書繪本↓K・マンガに至る各類型から二部づつ、抜いて、次の諸點から、分類してみました。

一、人物 二、動物 三、魚、昆蟲、鳥

四、場面 五、行動

以上の統計表は略しますが、その結果は次の様になります。

一、では、子供のための繪本ですから、その生活感、觀察感からしても、子供の現れない場面はない云つてもいい様です。又、内容の子供をめぐる大人も、父母、兄弟姉妹、先生、軍人などの順で、母子子の現れる場面が多い。

二、三、では一般に愛玩物、鳥、傾向のもの、(犬、猫、馬、猿、うさぎ、牛、ねずみなどが動物表中六十%。小鳥、にはさり、ひよこ、雀、鳩などが鳥表中五十四%。大部分で、動物中、擬人化したものでは猿が多く、うさぎ、ねずみ、なぎが次ぐ。

四、の場面の類別では、室外では自然、街路のものが大部分、室内では家庭での場面が断然多く描かれてゐる。

五、の行動(何をしてゐるか)の統計では「遊んでゐる」が一番多く、「何か見てゐる」「動物なごを可愛がつてゐる」なごが次ぎます。その他約三十種に分けられる程の幼児の生活の種々相が描かれてゐます。

以上を總括してみますと、
一、幼児生活への親密感、

二、日常生活そのものゝ興味ある場面、

三、メルヘンの要素の加味

なごが、主とした特徴としてうけとられます。

觀察報告

次に、極く少數の範圍でしか實驗出来なかつたのでありますが、出来るだけ自然な状態で幼児が各種の繪本に對する態度を觀察してみました。

一、ごんな繪本を好んでえらぶか、

二、繪の主題を正しくうけとるか、

三、繪を全體としてみるか、部分的にみるか、

四、その他

なごを中心にして、出来るだけ全體的に觀察を試みてみました。

観察対象としたのは東京の新市街中流階級家庭の幼児を
 (收容する幼稚園児二十二人(男・女半数)で、次の様な方法
 を取りました。

場所は園内建物内をや、隔離されたガラス戸の多い明るい
 部屋、実験者も被験幼児は大抵が知合ひの仲で、親しい
 子供ばかりです。二人づゝ部屋に入れて、入口を入つた所
 に雑然さをいである繪本(後記)にしばらく自由に接し
 てをいて後、「その中から好きなのを二冊づゝもつて、こゝ
 でゆつくり見て頂戴。」と幼児用の低いテーブルに導き、實
 験者は普通のテーブルで書物する様な調子で成可く子供に
 干渉しないで観察し、記録しました。大抵の子は問はずも
 も一人で見乍ら喋りますが、黙々見る子には時々實驗者
 から、説明を求める様に、誘導しました。同一の繪本を二
 人が同時に選んだ時には片方が見てから交換しました。

観察材料の繪本は次の様に選びました。

イ、	童畫繪本	8
ロ、	生活描寫繪本	8
ハ、	擬人化繪本	2
ニ、	のりもの繪本	6
ホ、	動物繪本	2
ヘ、	軍事繪本	3
ト、	お伽繪本	8
チ、	觀察繪本	2
ヌ、	立體繪本	2
ル、	漫畫繪本	3

計 44 冊

(リ)雜誌形式の學
 習繪本は除きました。

さて、以上の経路で、子供が選んだ繪本は次の様であり

ました。

表 5
 (子供の選んだ繪本)

繪本	男兒	女兒	冊数計	%
イ	5	7	12	27.3
ロ	0	4	4	9.5
ハ	0	4	4	9.5
ニ	7	2	9	20.0
ホ	1	2	3	6.8
ヘ	8	0	8	18.0
ト	0	1	1	2.2
チ	0	0	0	0
ヌ	1	1	2	4.5
ル	0	1	1	2.2

計 44 冊

(各個人の選んだ繪本の
 組合せは省略します)

表5の通り男、女兒二十二人によつて、四十四冊選ばれ
 た内、(イ)童畫繪本が二十七%を占めて、女兒の方がや
 多く選んでゐます。次に多い二十%の(ニ)ノリモノ繪本は
 殆んど男兒が選んでゐます。十八%の(ヘ)軍事繪本は男兒
 のみで、女兒中これを探り上げようとしたものも若干はあ
 りましたが結果は一人もありませんでした。これに反し
 (ロ)生活描寫繪本(ハ)擬人化繪本は女兒のみ。

一般に男兒の選擇態度は早く、明快で實驗者の言葉に従
 つて「ボク、コイツダ」「コレ スゴイヅ」なごみ云つて氣に
 入つたのを取り上げます。女兒は選擇に時間がかり、二
 冊以上ももちたい、慾張り傾向がありました。

かうして二冊の繪本を夫々選んで、テーブルについてか

ら二冊を一通り見終る時間を五分單位に類別してみます。次の様に示されます。

表 6

分	男	女	計
0—5	0	1	1
5—10	1	1	2
10—15	3	1	4
15—20	6	3	9
20—25	0	2	2
25—30	0	3	3
30—35	0	0	0
35—40	A 1	0	1
	11	11	22

平均：
 男 19 分 5 } 20分 2
 女 20 分 9 }

これによる平均二十分を山として女兒の方がやゝ永く見てゐる傾向を示してゐますが、大體男兒の方が見方が荒つぽくせつからで、女兒の方が氣に入つた場合でお喋りが長い傾向があつた結果が示されてゐます。

註(牛島教授による遊戯の研究中の繪本を見てゐる時間は平均二十三分一)

子供の繪本を見る態度は實に種々様々で、出来るだけ忠實に記録した結果を讀むだけでも興味がつきませんか、これを大體まごめてみました。

一、經驗回理想型。これは最も多い型で幼兒期の特徴の代表的なものです。

例。海岸線の自然描寫の圖を見て。(女兒)……急に何ものを見付け出した様に緊張して……「コレキットク

リガ濱ヨ、クリガ濱イッタトキ、オ母サンガネテタトキ、ヘンナクサツタモノ モラツテ イヤデ ニゲタノ……」

遠足の圖を見て(男兒)「……コナイダ先頭ニナツタネ……」

滿洲風俗圖を見て(女兒)「……コレ 支那ヨ、ニューステミタワ……」等

人參の繪を見て(男兒)「……ダマシテタバタツケ」(欺されて食べさせられたらしい)この型の特長は觀察者、又は隣りの友人に話したが、説明したがる傾向があり、その態度は自信をもつて、押しつけ氣味です。

二、經驗聯想型。繪を自分の經驗と結びつけやうとする。例。騎兵斥候の圖を見て(男兒)

「……斥候ニ行ツテクルンダゼ……長屋ノ子ノオ兄サンカナ……」

狂犬病豫防注射場の圖を見て(男兒)

「……コノ犬、コノブル コワガツテルンダゼ……コノ子タクサン モツテヤガルナ、四ヒキダゼ……」後でボツンミ「……ウチノイヌキナクナツタンダ……」

自轉車の繪(女兒)「……自轉車一バイノツテルワネ、(數へて)六ツノツテル……コウチャンノジテンシヤコドモノリヨ、小チャイ ワガツイテルカラ アブナクナイ

ノヨ……」

三、觀察型。これは若干あつた型で客觀的に見、批判的な言葉を出す。

例。幼稚園の圖(男兒)「しばらく見てから」……コレ東京ノヂヤナイネ……」

白熊の圖(男兒)「……コンナシロクマカシコインダッテ……ユキノナカニキルカラシロインダナ……」

(女兒)「……テフ〜ガナイテル……ハチミツガナイカラネ」

四、情緒型、これは女の兒に多いタイプ。

例。「……マア カワイ、ウサギ……」「お花ノ人ヨ、笑ッ

テルワネ……」「イ、デスネーイ、デスネー」

「カワイ、カラススキサ……」「……怒ツタ顔キラヒヨ……」

「アツ、キミガワルイ、キラヒ……」

五、没入型。

例。年の市の圖、(女兒)「……迷子ニナリソウネ……」

お菓子の圖(男兒)「……オイシサウダネー」

小川の圖(女兒)「……マタゲルワ……デキナイカナー」

以上は大體の觀察の型であります。こゝで注意された事はウマイナーキレイイナノミ云ふ、見方をした子供が男兒に一人しかるなかつた事です。

次に繪の主題の受け取り方は、觀察の結果から見るに、男兒が割合全體的に、又誤りなく判斷し、女兒は細部に注意して、主觀的な時として誤つた判斷を下す傾向がありました。例へば、兵隊がキャンピングして、「飯がう炊さん」をしてゐる繪を男の子は大きく前面に描かれた場面に注意し女の子はその圖では背景となり細部である。「……兵隊サン ホタルトッテル……」場面に注意しました。

主題のうけざり方の誤りは自分の知らないものを經驗内で判斷しやうとする所から生じます。例へば、プール混雜の繪を見て、

「……コレ オセントウ(錢湯)ダ、ケンカシテ入ッテル……」
「……わたげのたんぼの繪を、……お花ダナ姫百合カナ」
「……大根ネ」の如きものです。

以上は僅か二十二人についての觀察の記録を抄出したものですが、この觀察から大體次の様な結論を得ました。

一、殆んど例外なく幼兒たちは自分の經驗(最近の事柄が、印象の強かつた事)に繪の場面や内容を結びつける。説明のつかない未知のものも、それを自分の經驗内の何ものが結びつける。それで満足する。

二、繪を上手さか、きれいさか批判したものは一人(男兒)きりで、他は、可愛いさか、面白いさか、すき、きらびさか、内容の具體物に主觀的な觀察を投げる。即ち、

繪ましてより内容の事實にひかれ、喜ぶ焦點は常にそこにある。

三、二冊えらんだ繪本を完全に二冊とも見る子は少く、一冊に熱中するか、普通に一冊見終るに飽きて、二冊目は態度が甚だ不熱心な傾向がある。

四、繪を完全に全體まして認才するものは少い。部分的なものに注目し、内容の何ものかについて判断して満足する。

結語、私見

幼兒は繪畫の内容の事實的興味によつて繪を見るに云ふ判断は、この小觀察に於ても一致してゐます。かうして幼兒が藝術的に美を、色を鑑賞するのでなく、事實の再現として繪を見る以上、繪本の内容は、先づ幼兒の生活の事實的興味にその焦點を居かねばなりません。教育的効果から云つて事實を正確に描いたものが善い云へませうが、それはたゞ寫實的に正しく再現されたものでは幼兒が喜んで見る繪は云へません。即ち教育的な正確さ云ふことが、この場合、幼兒心理と一致した意味の正確さであることが必要です。童心を擱んで幼兒の目に素直にうけられる様なものでなくてはなりません。

幼兒の描く繪からその獨自性(不均合、矛盾、不統一、想像と現實のからみ合ひ)などを看取し、一方繪の内容の部分

くの事實に喜びを見出す、幼兒の繪を見る態度から、幼兒のための繪本が出されなくてはなりません。

幼兒は具體的事實から繪に興味をもちますから、赤本の様な色があくまでなくとも、描寫が目茶目茶なものでも喜ぶのですが、情緒的科學的教育のいつれからも、わるい繪本が幼兒をスポイルする事は云ふ迄もない事です。飽くまで、よい繪本を科學的に究明することは必要な事です。小兒を小賢くする様な目先だけの繪本も避けたいものです。幸ひ良心的な高級繪本の發行が、若干あり、不斷の精進をつゞける童畫家、童話、童謠作家があり心強いものがあります。が、此の際幼兒に繪本を買ひ與へる親たちの反省と共に、高級でなく一般的に擴がる繪本となる様當事者の商策的研究も必要な事と信じます。K社の繪本の氾濫からみても先づ月刊形式(日本獨特)の繪本からもつゝ横に擴がる方法がある様に思へます。

- 一、幼兒に理解され易い經驗的に親密感の溢れた、
 - 二、線の鮮かな色の明い、
 - 三、描寫の正しい然し重心的な矛盾を消化した、
 - 四、内容の複雑でない、
 - 五、科學的、教育的要素を加味した、
- 善い繪本の氾濫を祈つて止みません。

偶 感

及 川 ふ み

漢口へくゞ進撃する皇軍の目覺しい奮戦振りを、朝の

あつたであらうなゞ、次から次へゞこの勇士たちの事が考へつゞけられた。

ニュースで聞き終へて、皇軍將士への感謝の念を一層深くしながら門を出るご間もなく、向ふから十數人の白服の兵隊さんの一行が歩いてこられるのが見えた。この横道なごへさうしたごみかご不思議に思ひながら歩いてゐるうちに、だんくゞ近づくご、左或は右の片足が義足である方々ばかりである事に氣づいて、はつごした。すれちがつた時には感謝の氣持が一ぱいで、一人一人の方々におのづから頭が下つた、勇士たちも皆にくゞして答禮して下さつた。

今全國の病院に我々のために戰つて下さつた名譽の傷病兵が數多く病を養つておられる。今更ながらにこの方々に滿腔の感謝の念が湧きおこるのである。大にしては傷兵保護院なごの國家的の施設によつて、この勇士方に對して更生の道が講じられ、それくゞ慰安の途も多々ある事であるが、この事變の渦中にある銃後の我々が痛切に感じたこの白衣の勇士達への感謝感激は、やがてはこの傷痕の勇士方への尊敬の念ごなるのである。

往きすぎて幾度か振りかへつて元氣に歩いてゆかれる後姿を見送つた。陸軍病院に療養されてゐる方々が近くのごのあたりには歩行練習に散歩せられるのかご思はれた。あゝあの方々はごこの戰場で傷つかれたのであらうか、あの傷はいつの戰のであつたであらうか。今日あの元氣な様子で、杖をもからずにうれしそくに歩いておられるが、あれまでに快癒されるまでの、長い間の心身の苦痛は如何ばかりで

幼稚園では幼児たちにもこの勇士方への慰問慰安の出来る様に、各地の幼稚園で誠心誠意種々の方法をこつておられるごみであらうが、これご同時に、のびゆくこの幼い人たちの腦裡に、現在の慰安ご同時に、この傷痕の勇士に對する尊敬の念を培ふ事が今の我々の忘れてはならない最も大切な務であるのであらう。

ながい夏休みも、終りに近づいて、九月の聲をきく、子供達もさぞ幼稚園の始るのを待ち遠く思つてゐる事であらう、いやそれよりもお母さん達がそれ以上にまたれる事かもしれないなき考へられる。

七月九日幼稚園の第一期終了式がすんで、幼児たちの長い休み中の健康をいのりつゝしばらくのお別れをした。その後自分たちは勤勞作業に、講習に、毎日幼児のゐない幼稚園に通つた事である。

園庭に幼児と一緒に作つてゐる蔬菜類も日毎にのびてゆく。トマトが實り、茄子がなり、里芋、甘藷は株がはり、かぼちやは大きなのが三つも出来た。九月、幼稚園が始るまでまつておけるものは皆そのまゝにしておいて、幼児たちに見せたいと思つてゐた。はからずも九月一日の大あらしで、蔬菜どころか園庭の樹木の多くは根こぎにされてしまつた。九月十日再び勤勞作業で本校の生徒たちと一緒に園内の草取りをした。かうして幼児たちの来る日をまつた。

九月十二日、幼児たちは朝早くから嬉々として三々五々登園して來た。この日は思ふだけ遊ぶ暇もなく式後は直ぐに歸つていつた。翌日からの幼稚園は短縮であつたが、幼児たちには、唱歌もいらなければ、お話もいらぬ。遊戯もしなくてよい、手技も亦いや。たゞくお友達と遊びたい

このことだけなのである。朝來るまお互にお庭に飛び出して遊びはじめ。堰を切つた水が迸る様な勢でお友達同志結びついて遊んで居る。二三日はただ遊びたいだけ遊ばせて、しばらくはその樂しそうな様子をたゞ茫然と眺めてゐた。海に山に樂しい數旬日を過して來たこの幼児たちにもいろく面白くこゝろ樂しい遊びも數々あつたであらうになき考へられた。

こゝでしみじみ考へさせられた。幼児たちはほんまに五分五分に遊べる友達が第一等の友達なのであらう。長い休みの間この五分五分に遊べる第一等の友達にかけてゐたのではなからうか、年齢の上においても、境遇の上においても、對等に遊び得られる友達ほゞよい友達はないものである。この點今更ながら幼稚園がこの人たちの樂土である事を痛感する。又これと同時に我々保姆が如何にこのよき相手の手に交つてその樂しさを損はない様にする事である。

てし育保を兒幼臺内

園稚幼心樹北臺
子久西川

現臺灣の文化

は日と共に非常な發展をなし、

凡ての方面に進歩充實して來り

ました事は誠に

欣ばしい現象で

御座います。

回顧すれば私

は（大阪船場幼

稚園を辭し）大

正十四年五月渡

臺致しました

が、住み馴れた大阪を後に父母兄弟に別れて誰一人、知り合ひもない此島へ來ました時には日本の地とは思へぬ程淋しさと悲しさとで胸一つばいで御座いました。それも其筈臺灣人と内地人との風俗習慣があまりにもかけ離れ過ぎて居る事でした。當時臺灣人は男も女も臺灣服にハダシで、殊に婦人が短かいズボンを着けて居る様は異様に感じられました。それに粗末な服装にも似合はぬ頭髪の飾、耳輪、腕輪、首輪、等

は實に立派で、金銀、サンゴ、ヒスイ、寶石を用ひたものを澤山身に付けて居るのが目に立ちました。衣服も母親が派手なものを用ひ子供には地味な柄色を着せ老母が赤い花簪をさして居るのも變つて居ます。住宅は一戸に何家族も同居し別居せぬ風習がある様です。其頃には婦人は勿論男も國語のよくわかる人が少なく臺灣語を使用するのを聞きますと、日本人であり乍らと實に可哀想な氣が致しました。

さて幼稚園は當時臺北には四ヶ所で園兒數も少なく、殊に本島人の入園希望者も僅か、社會が幼稚園に對する理解を持つ人も少ない有様でしたが、近年各方面より幼稚園の必要を認められ年々各所に新設せられ現在では當市に十四の幼稚園があります。其内九園は内臺幼兒を保育し五園は本島人幼兒を保育して居ります。

近年本島人家庭が次第に教育方面に目覺めて來り、實際生活上に國語の必要を認め内地人と同等地位に生活させたく幼稚園を経て小學校に共學を希望し、進んで上級學校に迄進めさせ様として居る家庭が、内地

人幼兒を主として居る幼稚園へ入園を志望するものが多くなつて來ました。併し餘り多數の本島人幼兒を入園させます事は保育上考慮しなげばなりません。現在では全幼兒の四分の一を限度として次の調査の結果入園を許可して居ります。

- 1、會話により幼兒の國語常用の程度を試す
- 2、保護者修養の程度を調査す
- 3、幼兒の健康状態の調査

入園當時本島幼兒は特に生活が變るので常に不安の状態にあり、何を尋ねてもなかなか答へませんが、凡て内地人年長兒にいいお手本となつて本島人を親切に導いて行かせる様に仕向け、本島人の姓名も内地人と同様に楊士伸(男)を伸ちやん、黃氏淑端(女)を淑ちやんと呼び内地人の間々に席を設けさせ、内地人と話會ひの機會を作つてやる様にし、自然のうち内地人に馴れ、保姆に馴れて知らずくの間國語を覺えさせ禮儀作法に習熟させ内地人に同化させる様にして居ります。其結果一ヶ年保育の園兒でも修了當時には凡ての生活が内地人に

本島幼児保育の立場

北臺私立愛幼稚園

佐竹花

感化されて、内臺人の見別けのつかぬまでになりまます事は眞に欣ばしい現象で御座います。

事變以來特に本島兒及びその保護者に對して凡ての生活を内地人化に努めさせ、日本國民精神の基礎即ち

一、皇室及び國家に對して尊崇の念を養ふ事

私たちの幼稚園は、大正六年から本島人（臺灣人）幼兒をお世話して居ります。今年は二十一年の修了兒を送りましたが、其間、直接本島兒の保育に當りま

二、國旗、國歌に對する禮儀を知らせる事

三、敬神の念を養ひ先祖を崇拜すること

四、日本人である幸福を感謝すること

に努めて居ります。

尙一般本島人も當局の御指導により、よく時局を認識し皇民化に努力する様になり

以外に、「國語に慣れさせ、國風に同化する。」と云ふ事は忘れてならない大切な使命でした。

大人になつてからは、今迄の臺灣の傳統的な生活が浸み込んで居るために、急に改まつて日本人としての生活に入る事は困難です。

故に幼兒時代から内地人の生活に親しませれば自然のうちに、内地人、本島人が融和して、内地人の氣持ちにも通ずる事が出来ます。

従つて日本精神にも通ずる事が出来、國心を養ふ素となるので御座います。

其の爲には、言語を覚え易い幼兒時代に、

殊に國語講習所も各所に設けられ、六十の老人までも競つて入所し、今日では國語を解せぬものが少なくなりました。従つて服装等も改善せられ昔の様な風俗は殆んど影をひそめるまでに至りました。

幼稚園開設當時を顧み眞に今昔の感に堪えないものが御座います。

最初から、日本國民としての正しい國語に親しませ、耳に聴き慣れさせ、且無造作に語らせる事は非常に効果的ですから、日常保育の上に色々の工夫、實際取扱ひの上に細かい注意が要るので御座います。

次に記しました事は、ほんの自由遊びの折の一つの表れに過ぎませんが、こうした場面を繰り返して國語の習得になつて行きます。

A

今日、キンダーブックを配りました。持ち易い様にとクル〜巻いてしぼつてあげましたので、子供達は大悦びです。早速口にあて、「トテテテテター……先生、

僕兵隊さんよ」……と云ふ子はおとなしい方で、中にはお互におつむをポン／＼竹刀の積りでやつて居ります。其のうち「先生これ……と泣き相な聲がします。行つて見ると巻いてある繪本の上が一寸裂けて居りました。「破れたの?」……「ウン破れた」……此の發表しかねて居る言葉を補はれて英暉ちゃんは満足さう。

B
お山が出来た、トンネルが、汽車が、公園が出来上つた時の満足さうな顔、純真なほゝ笑み……

「昨日雨が降りましたねー」
「先生、虹見たよ」
「僕のお父さん雨ザア／＼頭死んだよ」
「アラさう……頭が痛くなつたんでせう」
「さう」
知つて居る範囲内で如何に表現し様かと苦心して居る様子がうかゞはれます。

C
急にバタ／＼と靴音がして、しつかり手を握りしめた玉梅さんが馳けて來ました。そして、手を開いて見せて、

「先生、これなあに。」
「ぞーれ、あ、これね、カタツムリ」
「カタツムリ、カタツムリ面白いねー、カタツムリの着物丸いねー、お目々こんなに長いねー臺灣語ローレイと云ふのよ」
もう一度カタツムリと云つて彼方へ行つて仕舞ひました。

D
瑞林さんは何んでもおしまひに、ワー、をつけないと話しにくひらしい。

「先生ワー、僕ワ、活動ワー、行つたワー」とたてつゞけに申します。
「マー、よかつたのねー……僕は誰と活動に行つたの?」と靜かに尋ねてやりますと、
「僕はお母さんと活動に行つたよ」と嬉し氣なお返事をきく事が出来ました。
こうして話して居る内に、自然テニヲハの使ひ方もわかつて參ります。

新幼稚園唱歌 草川 信 共編
坊田 鶴 共編

著者の序文にもございます様に、お子様を通して幼稚園生活をお知りになり、又屢々幼稚園を訪問され、保姆と懇談されて後に著者の心に浮かべられたといふ數十の歌曲がおさめられてございます。著者は人も知る幼児唱歌作曲の大家。

何れも簡に過ぎず微に入らず、従来の幼稚園唱歌に飽き足らなさを感じて居らるゝ方には、必ずや満足な以つて迎へらるゝことと信じてます。その上、巻末には、強弱のつけ方、強弱歌ふ心持に至るまで懇切丁寧に説明が加へられてあります。之に依つて指導者の立場にある保姆は實に確かな指針を得らるゝことになり

ます。
大方の御購讀を切にお奨めする次第です。

(四六版、美本、定價 八拾五錢)
送料 拾貳錢

發行所 教育音楽書出版協會
東京・神田錦町三ノ十一

選外佳作の七

貞夫ちゃんとお太鼓

眞木喜久子

ドンドンドンドンドコドン

太鼓さんは軍歌を唄つたりいろ／＼な唱歌を歌つたり子供さん達の良いお友達でした。

今日も貞夫ちゃん海軍服に軍艦の模様をついたエプロンをかけて元氣よく幼稚園に参りました。

「おーいみんな集れよー」

今まで大事にもつて来たお辨當をお部屋の棚にしまふ大きなこゑでお友達を集めました。

「僕も入れて」 「僕も」

貞夫ちゃんの声であちらの方で今までみんなの遊ぶのを見て居た吉夫ちゃんも、ブランコにのつて居た次郎ちゃんも大急ぎでかけよつて来ました。

貞夫ちゃんは大好きな太鼓さんを首からかけて、赤と白のひもで自分のからだに結びました。そしてお友達を列にならべドンドンドン、天に代りて不義を打つ忠勇無双の我が兵は……貞夫ちゃんの一生懸命たゞく太鼓に合せて棒をふるもの、帽子で拍子をさるもの、ぐる／＼かけ廻りました。

お庭の中だけではつまらないさみえてお部屋の裏側から細い道を抜けて、裏のお山まで来てしましました。いくさごつこをする時はいつもこのお山で遊んでました。

お山にはさんごうにいゝ様なかくれ場所もあるし、たくさん樹があるので、樹のかげにかくれて機關銃もうてるし、貞夫ちゃん達はこのお山が大變好きでした。

しばらく遊んでゐる中に、時計の長い針も短い針もグルト歩いて、だん／＼十二時近くなつてしまひました。おひるのサイレンがボー／＼なりました、今まで夢中になつて遊んでゐた貞夫ちゃんも、ドンドンドン「みんなおひるになつたから早くお部屋へ歸らうよ」首からさげた太鼓をうちながら大急ぎでお部屋の方へ行きました、次郎ちゃん達も汗をふきながらお辨當を戴きに來ました。

ずい分、力を入れてお太鼓を叩いたりかけ廻つたりしたのでおながペコ／＼おべん／＼のおいしかつたこゝおいしかつたこゝおべん／＼はすぐ空になつてしまひました。

貞夫ちゃんは仲よしの太鼓さんにさよならをして幼稚園からかへりました。

貞夫ちゃんはお家へ歸つてからも、床の中にはいつてからも太鼓さんのこゝばつかり考へてました。

僕の太鼓は幼稚園の太鼓さんの様にあんなにきれいでないし、日の丸の模様も軍旗の模様もついてゐない。つまらないなあ、又明日早くいつて太鼓を打つて遊ぼう。こんなこゝを考へながら貞夫ちゃんはさう／＼ねむつてしまひました。

チンチンチンチンチンチン、時計が六つなりました。お部屋の窓が明るくなりました。お日様が貞夫ちゃんのお部屋を照らしはじめました。いつもならもうおきて來る筈なのにさうしたのか貞夫ちゃんは未だおきて來ません、お母様が「貞夫ちゃんもうおきてもういゝでせう」こおこしに來ましたが貞夫ちゃんはがいがいお顔をして「あたまがいたい」こしぶ／＼しました、お母様は心配そうなかほをしてすぐおねつをはかつてみました。困つたこゝに貞夫ちゃんは少しお熱がありますお母様はすぐおくすりを下さいました。

貞夫ちゃんは昨日の様に元氣な貞夫ちゃんでなくなつてしまひました。おふさんの中で一日

おねんねしてなければならなくなりました。

おねんねして居ても貞夫ちゃんやんは幼稚園のお太鼓さんのこまばつかり考へてゐました。

僕の仲良しの太鼓さんはごうしてゐるだらう、誰も遊んでくれないので淋しがつてゐるんではなからうか？こんなこまを考へてゐました。

幼稚園では今日はお太鼓叩きの上手な貞夫ちゃんやんが居ないのでみんな「つまらないなあ」云つてブランコやお砂場の方に行つてしまひました。太鼓さんは一人ぼつち柵の上においてきぼりにされてしまひました。

何時もおいたの好きな正ちゃんやんがお部屋の中をキョロ／＼見廻してゐる。柵の上の太鼓に目がまりました。早速太鼓をさげて叩きはじめました。ドンドン正ちゃんやんの叩く音をきゝつけて二三人の子供が正ちゃんやんの後ろに續きました。正ちゃんはお友達なんかにかまはず、裏のお山の方まで来てしまひました。

面白くて／＼仕方がない。いつの間にかぐつしより汗をかいてしまつた。正ちゃんは太鼓を首からおろし草の上に腰をおろしました。

お友達等は向ふの樹の下でしきりになにかいひあつてゐる。それでも正ちゃんやんは随分つかれたさみえて草の上どころがりました。

赤さんぼがスー／＼／＼ささんで來ました。正ちゃんやんは急におき上るさそうつさ、さんぼの後に廻りました。かぶつてゐた帽子をさりさんぼにかぶせ様と思つて近づいたら赤さんぼは、スー／＼にげて別の枝にさりました。

又そろ／＼近づきました。さう／＼一匹さらへました。喜んで又さ／＼赤さんぼのこまつてゐる方へ追ひかけました。

だん／＼奥の方に這入つて行くうちに、又一匹又一匹。正ちゃんやんは夢中になつてさんぼを追ひ廻しました。

氣がついてみた時には、お友達のおねんねもちつともきこえない所におりました。

正ちゃんやんはびつくりして、つかまへたさんぼの羽根を大事にもつてさ／＼お山をおりてみ

んなの遊んでるお庭までかけて来ました。あまり急いでおりて来たので、正ちゃんはお太鼓さんのこご等すつかり忘れてしまつたんです。

それから三つおねねした次の日貞夫ちゃんもおねつがつて又もこの様に元氣な貞夫ちゃんになりました。今日は朝早くからおきて幼稚園に行きました。何よりも第一に柵の上のお太鼓さんを見ました。

おやぎうしたんでせうお太鼓さんの姿が見えませんが、切かく楽しみにして来たお太鼓さんが見えないので貞夫ちゃんはがつかりしてしまひました。お庭の方をのぞいてみましたがここからも太鼓の音等きこえてきません。

「先生お太鼓さん何處へしまつたんです？」

先生も柵の上をごらんになりましたがさうしたのか、そこには太鼓さんがありません。

先生もあちらこちらさがし廻りました。

でもお太鼓さんはお遊び道具入だの押入れにもお部屋のすみっこにも見當らない。

さあ困つた。吉夫ちゃんも次郎ちゃんも手傳つてさがしたが見えない。誰がもち出したんでせう。ワン／＼かしら？　ちがふわ

ワン／＼はこんなお部屋まで這入つてこないし、重くてお口にはくわへてゆかれないうし、光ちゃんも一夫ちゃんも綾ちゃんも誰も知らない。困つたわ／＼お庭から裏のお山まで来てしまひました。何處にもお太鼓さんの姿が見えません。

子供達はだん／＼つかれてしまつてさがすのが嫌になつてしまひました。

あら！あの草の中に赤いものがチラ／＼見えてよ、先生がおつしやるま今までしょんぼりしてゐた貞夫ちゃんも急に元氣づいてかけよりました。

バンザーイ／＼一番先にかけてつけた貞夫ちゃんが両手にお太鼓さんを持つて高くあげました。「バンザーイ」先生も喜んで貞夫ちゃんよりもつゞ大きなこゑで叫びました。

ドンドンドン………

又幼稚園のお庭はもこの様にお太鼓の音がにぎやかにりました。

觀察の本と、唱歌の本 とを出したにつけて

倉橋惣三

この夏、本會から、觀察の本と、二種の幼稚園唱歌集とを刊行した。これだけ優秀なものかは、自卑すればきりがないし、自讃すれば更にきりがない。たゞ、兩方とも、斯うしたものが、強く求められてゐる中に出てゆくとして、その理由では必ず迎へて貰へることを思つてゐる。

「觀察の實際」は、前刊の「系統的保育案の實際」の子本（おかしな言葉であるが、系統的保育案の實際」を親本として、その補充解説のためにそれから小分れに出て来るもの）であつて、あの保育案が發刊せられて以來、本會の一つの義務となつてゐるものであり、又あの保育案の普及と共に、廣く求められてゐるものである。東京女子高等師範學校附屬幼稚園の實施案を保姆諸君が協議し検討し、更に分擔して執筆起草し、それを編纂掛りに於てまじめ上げたものである。觀察はその目的では明瞭でも、その實際では確たる方針も態度も、随分むづかしいことにいはれてゐる。又實地に行はれてゐることも、可なりまち／＼であ

るらしい。そこへ、一つの參考として提供したのである。何も此の通りにさういふ譯ではないが、之れで、理科教授でもなく、無觀察でもない幼稚園保育の觀察のめ、や、すが立つていふものか。編輯上の大きな苦心と努力を、知つてゐる私としては、可なり大きい價値を、此の本に認めずにはゐられない。何しろ、こゝにいふ本は初めて世に出た譯であつて、幼稚園保姆諸君は、執つて用ゆるなり、批判して斥けるなり、是非一應は讀んで見て下さらなければならぬまい。本會も説も御意見を澤山承りたいのである。觀察に關する論も説も多い。實際の研究の綜合的發表はまだ少ない。従つて、問題はしつかりきまらない風があつたりする。此の小さい本がその踏み石になれば幸である。體裁は前刊「幼稚園談話集」と同じで、謂はゞ、保育項目研究上の姉妹篇である。唱歌の本の方は二種出した。兩方とも新詞新曲で、本の標題を「幼稚園新唱歌」「新體幼稚園唱歌」として區別したが、表紙の色で綠表紙唱歌集、褐色表紙唱歌集と區別してゐる程のものである。

「幼稚園新唱歌」の方は、嘗て本會が懸賞募集した幼稚園唱歌の中入選せられた佳作四篇に、小松耕輔氏の作曲を乞ふたものである。山村きよ氏の「めだか」、杉山米子氏の「雨」、青山綾子氏の「ほたる」、氏原銀氏の「ふしん場」。いづれも女性の作である。氏原氏（先般物故せられた我國幼稚園

の最先驅者のお一人を除いては、皆妙齡の淑女諸君で、その歌詞も亦、皆やさしい。綠唱歌集さいふに極くふさわしい。小松氏の作曲に就ては言を用ゐるを要しない。「新體幼稚園唱歌」の方は、一層その表紙の色に相當したものである。何故なら收むるさころの五篇皆倉橋老大人の作だからである。誰れが見ても褐色唱歌集である。更に、その歌の内容も、巻頭「日本の旗、日の丸の旗」を除いては、「道ぶしん」「いふびんやさん」「渡し場の船頭さん」「火消しのおぢさん」皆、花鳥風月の美を取扱つたものでなく、實社會生活の、その中でも、實勤勞に屬するものゝみである。従つて褐色的であるが、そこに私の意圖があることは、お汲み上げ願ひたい。つまり幼児に、斯うした感激の歌が歌はせたいのであり、その保育効果にも或る期待をもつてゐるのである。斯ういふ歌詞に豫て贊同の方は勿論、不贊同の方にも、是非一應御覽願ひたい。作曲は小松耕輔氏、井上武士氏、弘田龍太郎氏、中山晋平氏、小林つや江氏で、作詞者としては恐縮にたえない程勿體ない佳曲そろいである。

折角く出したものにつき、その心もちを御諒解いたゞきたいと思つて、一筆記して申上げて置く。さうぞ廣く使つて、刊行の心を活かして下さい。

事務係からのお願ひ

○本會發行の書籍等を御購入下さる場合、よく代金引きかへのお申込みがございませう。出来るだけ御便宜にと存じて居りますので、御申込み通りのお取り計らひを致しますと、代金引き換へ料金が意外に高價だと言ふので、御返本になる方が屢々ございませう。誠に困りますので、この後は代金引きかへのお取り次は致さぬ事になりましたから御諒承下さい。

○雜誌でも書籍でも御注文の際には必ず代金お拂込みの上御注文下さい。之も皆様の御便宜にと存じますので、後から拂ふからとのお言葉により御急ぎの場合には御送本いたしました方が、御拂込みが大變おくれる方もあり、事務が誠に煩雜になつてまゐりますので、この後は特別の場合の他は代金のお拂込み無き御注文には御送本致さぬ事になりました。之又御承知置き下さいませ。

○「幼児の教育」及び他の書籍の代金に對しては別に領收證を差出しませぬ。特に御入用の方は必ず三錢切手封入の上御申越下さい。

日本幼稚園協會

ハイデイ (第七回)

東京女子高等師範學校教授

津田芳雄譯

六、新しい生活

フランクフルトの廣いお家では、ゼーゼマン氏のお嬢さんの病身なクララが、いちんち車つきの寢臺の上にねたつきりて、一寸動くにも寢臺ごみ部屋から部屋へ押して行つて貰ふさいふ、不自由な退屈な毎日を送つてゐた。今もクララは、いつも先生からお勉強を習ふ。立派な本箱の竝んだ美しいお部屋に寝て、瘦せた青白い小さな顔を時計計に向けて、弱々しいやさしい青い眼を見開いて、ぢつと針の進みを見つめてゐた。今日に限つて時計の針がいやにのろ／＼と動くやうに思はれ、いつになくぢれつたさうに訊ねるのだつた。

「まだですか？ ロッテンマイアさん」

ロッテンマイアさんは、ケープのやうな大きな襟のついた不思議なだぶ／＼の服を着て、高い圓屋根のやうな帽子をかぶり、いかめしく傍の仕事

机に端坐して熱心に刺繡をしてゐた。クララのお母様がすつ／＼前に亡くなり、お父様は御用で始終留守勝ちなので、長年の間、家の切りまわしから召使の監督一切を、お父様から委せられてゐるのである。たゞ一つ。何事によらずクララに相談し、すべてクララの意にそむかないやうにさいふ條件づきで。

クララが又待ち切れなくなつて二度目の催促をしてゐる時、デーテミハイデイは玄關に著いた。デーテは折よく馬車から降りて來た馬丁に、ロッテンマイア様にお目にかゝりたいのですが、もう遅いでせうかまたづねた。

「それあ、わたしは知らん。玄關のベルを鳴らして、セバスチャンをお呼び」

馬丁はぶつくさ云つた。

デーテがベルを鳴らすと、下男のセバスチャン

が降りて来た。

「ロツテンマイア様にお目にかゝりたいのですが、もう遅うございませうか」

デーテは又たつねた。

「それあ、わたしは知らん。その、こつち側のベルを鳴らして、女中のティネットをお呼び」

さう云つて、セバスチャンはさつささ引つ込んだ。

デーテは又ベルを鳴らした。今度は頭のでつぺんに眞白な帽子をのつけた女中のティネットが、人を馬鹿にした様な顔をして出て来た。

「なんです？」

ティネットは階段の一番上に立つたまゝぎなつた。デーテは又同じこみをたつねた。ティネットは引つ込んですぐ又現はれるを、上から呼んだ。

「お上んなさい、お待ち兼ねよ」

デーテミハイディは階段を上つて、本箱のあるお部屋へ這入つた。デーテはしみやかに入口際にひかえ、こんな珍らしい所につれて來られては、又何をやり出すかしないハイディの手を、しつかりと握まへてゐた。

ロツテンマイアさんはしづくミ立ち上つて、

新しくお嬢さんのお相手になる子供の方へ進み寄つた。一見して、あまり氣に入らない様子だつた。ハイディは粗末な毛織のきものに、型のくづれた古い麥藁帽子をかぶつたまゝこの人の高い塔のやうな帽子を、不思議さうにまじまじ見上げてゐた。

「お名前は何ていひます」

ロツテンマイアさんは、しばらくしげくミ子供の様子を調べてから、かう云つてたつねた。ハイディはなほもまぢろぎもせず見返しながら、鈴のやうなよくひびく聲で答へた。

「ハイディよ」

「なになんですつて？ それは洗禮名ぢやないでせう、教會で洗禮を受けた時、何てお名前をつけていたりました？」

「そんなの、知らないわ」

「何て返事の仕様でせう。」

ロツテンマイアさんは頭を振りながら、デーテに云つた。「一體この子は馬鹿なの、それさも生意氣なの？」

「ほんたうに失禮ばかり申し上げまして」デーテはこつそりミハイディを小突いた。「決して馬鹿で

も生意氣でもないのですが、ぢきに思つたことをズバ／＼と申してしまひますので。何しろ人さまに馴れません、生れて初めて立派なお屋敷に上つたものでございますから、お行儀をちつとも存じませんので。でもこの子はお仕込み下さいますれば素直にちきに覺えます。この子の洗禮名は、私の亡くなりました姉で、これの母親になりますものゝ名をこつて、アデライデと申します」

「まあそれで、名前らしくなりました。ですけれどもね、デーテ、實は私はびつくりしてゐるんですよ。あんまり小さいぢやないの。たしか私はお嬢さまのお勉強から何からすつかりお相手出来る、お嬢さまと同じ位の年の子供を云つた筈ですよ。お嬢さまは十二におなりだが、その子はいくつなの？」

デーテは例の雄辯な調子でまくし立てた。「私もはつきりとは覺えて居りませんので、ございませぬが、もちろんお嬢さまよりは少し小さいかございませぬが、そんなに下ではございませぬ。しかまは申し上げ兼ねますが、たしか十くらゐでございませぬ」

「おぢいさんは八つだつて云つたわよ」

ハイデイが口を出した。デーテは又小突きまはしたが、子供には何のこゝちやらさつぱりわからず、すましたものだつた。

「何ですつて、たつた八つですつて！」

ロツテンマイアさんは怒つて叫んだ。「四つも下ぢやありませんか、そんな小さな子が、何の役に立ちますか！そしてあんたは、今まで何を勉強したの？　ごんな本を習ひました？」

「何にも習はないわ」

「エッ何ですつて？　それぢやさうして字を讀むことを教はつたの？」

「字なんか習はないわ、ペーテルだつてよ」

「おや／＼、字も讀めないのですつて？　ほんとうに、そんなこゝちつて、あるかしら。それぢや一體、何を勉強したの？」

「なんにもしないわ」

ハイデイはおめす臆せず正直に答へた。

ロツテンマイアさんは、呆れ返つてものも云へなかつたが、やつこ取り戻すこゝち、デーテに喰つてかゝつた。

「これぢや全く話がぢがふぢやないの。何だつてこんな子を連れて來たのです」。

しかしデートもなか／＼負けてはゐなかつた。

「あなた様が一風變つた子をミ仰せられましたから、これ以上うつつけの子は無いミ存じましてわざ／＼連れて參つたのでございます。もう私の方の奥様もお待ち兼ねでいらつしやいませうから、これで失禮いたします。いづれ又、様子を見に伺ひます。」

さう云つて一禮するミ、デートは部屋を出て階段をかけ降りた。ロツテンマイアさんはほんやり突立つてゐるが、あわててあミを追ひかけた。この子をおいて行くつもりならば、もつミいろいろ／＼訊きたいミがあるのであつた。

ハイディは這入つて來た時のまゝ入口に立つてゐた。クララはさつきから一言も云はずに見てゐるが、この時ハイディにおいで／＼をした。

「こつちへいらつしやいな」

ハイディはそばへ行つた。

「ハイディつて呼ばれるのミ、アデライデつて呼ばれるのミ、さつきがすぎき？」

クララはたづねた。

「わたし、ハイディのほかの名前なんか、ないわ」
ハイデは即座に答へた。

「そんならいつもさう呼ぶわね。その方が似合ふわ。變つた名前ね、だけさあんたつて子もずる分變つてゐるわ。いつでもさうやつておかつぱにしてたの？」

「さうよ」

「フランクフルトへ來るの、うれしかつた？」

「いゝえ、わたし明日はおうちへ歸るのよ。おばあさんに白バンをお土産にもつてつてあげる」

「まあ面白い子ね。あんたはね、あたしのうちで、あたしミ一緒にお勉強する爲に、わざ／＼連れて來られたのよ、あんたが何も習つてゐないのだつたら、新しいミを習はなきゃならないから、お勉強もこれからは面白くなるかも知れないわね。今までは、ミつても退屈だつたのよ。先生が朝十時にいらしつて、二時までお勉強なのよ。先生だつて時々近眼みたいに本を近よせて、こつそり欠伸をなさるわよ。あたし知つてるの。ロツテンマイアさんだつて、御本に感動してハンカチで涙をふくまねをするけれど、あれも欠伸よ。あたしだつて、ミても欠伸が出さうになるミがあるけれど、一生懸命がまんしてるの。でないミ、もしロツテンマイアさんに見付かるミ、あたしが病

氣だかつて、大急ぎで肝油をのませるのですもの。あたし肝油、大きらひよ。だけごあんたが來れば、ずつこ面白くなつてよ。あたしはあんたが習つての間、寝て聽いてゐられるのですもの」

ハイディは、字を習ふなんてさうかな、こいふ風に頭を振つた。

「だめよ、ハイディ。字は誰だつて習はなきやならないのよ。先生はミても親切で、決してお怒りにならないし、何でも説明して下さつてよ。だけご、初めは何のこごだかわからなくつても、決して質問しちやだめよ、餘計にこんがらかつて、わからなくなるから。も少しして自分でわかる様になつたら、先生の仰しやるこごが、わかるやうになつてよ」

ロツテンマイアさんは、もぎつて來て、いら／＼しながら部屋中をあちこち歩きまはつた。デーテにもつこ詳しく話をして、こんな子供は何の役にも立たないこごを諭して連れて歸らせようと思ふのに、デーテはもうそこいらにゐないのだつた。さうなるこ、ハイディを呼びにやつたのは自分であるから、責任があるし、一層腹が立つて、食堂で、もう出來上つた晩御飯のお膳立てに手落ちに

はないかこ、なほも調べてゐたセバスタチャンつかまへて、當り散らした。

「何を考へ込んでゐるんだね、ぐづく／＼しないで早くおやりよ。今日の間に合やしな」

それから今度は女中のティネットを呼び立てた。あんまり不機嫌な聲で呼んだので、女中はいつもより餘計しやなり／＼澄まし返つて出て來て、つん／＼してゐた。さすがのロツテンマイアさんも吐り飛ばすこごが出來なくなつて、一層いら／＼するのだつた。

「今來たあの子の部屋をちやんこしておきなさい」やつこのこごでかんしやくを押へて云つた。「もうすつかり出來てゐるのだけれご、まだ塵が拂つてないから。」

「ありがたい御用でございます」

ティネットは馬鹿にしたやうにさう云つて、向ふへ行つてしまつた。

セバスタアンはクララのお部屋と食堂との間の折扉を、むしやくしやまぎれにわざこがたびし大きな音を立てて開け、クララの寝椅子を押してつれて來た。ハイディはそばへ來て、しげ／＼とセバスタチャンの顔を見つめてゐた。

「なんだつて人の顔を、さうじろく見てるんだ」

セバスチャンは怒鳴りつけた。

「あんたね、さてもペーテルに似てるわ」

丁度這入つて来たロツテンマイアさんは、この様子を見てびびくりした。

「あらうここか、あの子は下男にまるで友達みたいに話してゐる。あんな子さ思ひもよらなかつた」

セバスチャンは、クララを寝椅子から助け起して、食堂の椅子に坐らせた。ロツテンマイアさんはクララの側に坐つて、ハイデイに向ひ側に坐れし合圖をした。廣い食卓に、たつたこの三人が坐るきりなのだつた。セバスチャンはお給仕してまはつた。ハイデイはお皿のそばにおいしさうな白パンを見付けるさ、うれしさうに眼を輝かしながら、ぢつさお行儀よく坐つてゐて、セバスチャンがお魚のお皿を持つて自分の側に来るさ、

「あれいたゞいていゝの？」

さたづねた。セバスチャンがペーテルに似てゐるのが、なんさなく心易く頼りになるやうに思はれたのである。セバスチャンはちらろツテンマイ

アさんの方をぬすみ見ながらうなづいた。ハイデイはすぐに巻パンを取つて、ポケットにしまひ込んだ。セバスチャンはも少しで嘖き出しさうになつたが、やつこ場所柄を思つてがまんして、黙々として不動の姿勢のまゝハイデイの傍にひかえてゐた。給仕の身分さして、ハイデイがお魚をさつてくれるまでは、口をきくこども、向ふへ行つてしまふこども許されなかつたのである。ハイデイはいつまでもセバスチャンが自分のそばに立つてゐるのを不思議さうに眺めてゐるが、

「わたし、それもいたゞくの？」

さきいた。セバスチャンはうなづいた。

「そんなら、さつて頂戴な」

ハイデイはすまして自分のお皿を見つめながら云つた。セバスチャンは又嘖き出しさうになつて、捧げてゐたお皿がぶる／＼さふるえ出した。

「お皿はテーブルの上において、あさから來ればよろしい」

ロツテンマイアさんはこわい顔をして云つた。セバスチャンは直ちに出て行つた。

「あんたさいふ人は、アデライデ、お行儀の一番はじめから教へなきやならないのだね」ロツテン

マイアさんは溜息をつきながら云つた。「まづ第一に、食卓のお作法だが」云つて、細々々それを云つて聞かせ、「それから、食卓でもごっこでも、何か喧附ける時とか、用事があつてものを訊く時の外は、セバスチャンに口をきいてはいけなさいのですよ。まるでお友達みたいにあんなに心易さうに話すものぢやありません。ティネットにだつてですよ。私を呼ぶには外の人が呼ぶ通りに呼び、クララさまのことはクララさまに伺つて、その通りにお呼び申し上げなさい」

「もちろん『クララ』を呼ばばいゝのよ」
クララが云つた。

それから、一般の行儀作法についてのお談義が長々まつゝいた——朝起きるごっこから夜寝るごっこ、部屋の出入り、戸の閉め方、ものの片付け方に至るまで——その間に、ハイデイの眼はだん／＼塞がつて来た。何しろその日は朝五時前に起きて長道中をして來てゐるので、椅子にもたれてぐつすり眠り込んでしまつた。ロツテンマイアさんはやつゝお説教を終り、

「私の云つたごっこをよく覚えておくのですよ、アデライデ、わかりましたね」

云つた。

「ハイデイはもうごつくに寝込んでゐてよ」

クララがをかしさうに云つた。クララにはこんな面白い食事は、近頃めつたにないごこだつた。

「あゝ全くこんな厄介な子供はやりきれない」

ロツテンマイアさんは腹立ちまぎれにけた／＼ましくベル鳴らしたので、セバスチャンもティネットも、びつくりして飛んで來た。しかしそんな物音を立ててもハイデイはなかく／＼眼を覺まさず、二人はやつゝのこで、いくつもの部屋を通りぬけた端にあるハイデイの寢室へつれて行つてねかせたのだつた。

七、ロツテンマイアさんの大閉口

フランクフルトでの最初の朝、目を覺ました時、ハイデイは自分がごっこにゐるのか、ちよつと見當がつかなかつた。それから目をこすつてあたりを見まはすご自分は廣いお部屋の片隅の、高いまつ白なベッドにねて居り、長い長いカーテンから朝の光りがさし込んでゐるのだつた。窓のそばには大きな花模様をついた椅子が二つあり、それからそれと同じ模様の長椅子も、その前の圓テーブルが目に入つて來た。隅つこには洗面臺がついて居

り、その上にはハイディの今まで見たことのないやうなものが色々載つてゐた。それから急にハイディは自分が今フランクフルトに来てゐるのだといふことを思ひ出した。するに昨日の出来事がすつかり思ひ起され、あの家政婦のロツテンマイアさんのお説教が、——尤も終りの方は眠つてしまつたけれど——だん／＼はつきりと思ひ出されて来た。ハイディは飛び起きて著物をきかへ、それからあちらの窓へ、こちらの窓へ走りまはつた。外の空や田舎の景色が見たかつたのである。こんな大きなカーテンの内側に閉ぢこめられては、まるで籠の鳥のやうな窮屈な思ひがした。だがカーテンはなかく／＼重くて開けられないので、ハイディは下から這ひ込んでやつこ窓際へ出た。そころが窓は又、とても高くハイディの頭がほんの少し窓闕から出てやつこのぞけるだけだつた。そんなにまでしてのぞいても、ハイディの見たいものは何も見えなかつた。この窓へ行つて見ても、見えるものは壁の窓、壁の窓、壁の窓——ハイディはこわくなつてしまつた。朝はまだ早かつた。ハイディは早起きのくせがついてゐて、朝起きるまづみんながぎんな様子をしてゐるか、空は青いか、

もうお日様は山の上によつたか、樅の木は枝をゆすつてゐるか、お花はもう目を覺ましたかしら、いつも見に行つてゐたのである。小鳥が初めて立派な籠に入れられた時、大空へ飛び出さうと、ばた／＼と出口を求めゐるやうに、ハイディはあちこち窓をかげあるき、もつこ向ふのきこかには、あんなに見たい青草や山の去年の融け残りの雪がきつこあるだらうと、一生懸命窓を開けようとして小さい指をさし込まうとするのであつたが、窓はいつかな開かないのだつた。

その時ノックの音がして、ティネットが首を出し、「朝御飯が出来ました」云つた。ハイディはそれでさうすればよいのかわからなかつたけれど、ティネットがあんまりつん／＼すましてゐるので訊ねるこも出来ず。さにかくいつも山でしてゐるやうにテーブルの下から小さな腰掛を出して、隅っこに行つておさなしく待つてゐた。するに間もなくロツテンマイアさんが物凄くけんまくで這入つて来て、叱りつけた。

「どうしたのです、アデライデ、御飯ださいふのに、わかりませんか、すぐ来るのですよ」ハイディはやつこ食堂に行くのだとわかつて、

すぐついて行つた。クララはさつきから待つてゐて、ハイディをやさしく迎へた。クララは今日もまた面白いこぎが始まるだらうと楽しみだつたので、いつもよりすつと元氣さうだつた。今朝はハイディもさてもお行儀がよくて、無事に御飯はすんだ。クララは本箱のお部屋へ又押して行つてもらひ、ハイディもそこで一緒に先生のいらつしやるのを待つた。

「こゝからさうすれば外や地面が見られるの？」
ロツテンマイアさんがゐなくなるまで、早速ハイディはたづねた。

「窓をあけるのよ」

クララは面白さうに答へた。

「だつて、窓が開かないのだよ」

「開くわよ、あんたやあたしぢや駄目だけぢ、セバスチャンにたのめばすぐだわ」

ハイディはこれでやつと安心した。それからクララがハイディのうちのこぎ訊ねたので、ハイディは大よろこびで、大好きな山や山羊や花の一杯咲いた谷のこぎを話してきかせた。

幼児心理學 山下俊郎著

四六判布製四三〇頁

定價貳圓五拾錢

送料貳拾貳錢

著者山下先生は本誌にも屢々御執筆いたゞいて居ります斯道の權威者でいらつしやいます。

本書は先生の深い専門的學識と、お二人のお子様をお育てになりました御經驗との織りさなれて出來た二本で、序文にもありますやうにごく平易に書かれてございませう。面白く、興味混々惹きつけられて讀ませて頂く中に、幼児の心理學を教へていたゞいて居ります。

お母様にも、幼稚園の先生方にも是非御一讀をお奨めする次第でございませう。

發行所 巖松堂書店

東京市神田神保町二丁目
振替口座東京六五五六

幼稚園保育に於ける時局的反省の問題 (二)

— 講習筆記要領 —

倉 橋 惣 三

前 目 次

- 一 時局対策としての保育事業
- 二 時局に保育の内面の反省
- 三 國民精神總動員の三標語
- 四 盡忠報國心の教育

五、國家心の實感

昨日は言葉に纏めてみますれば、幼稚園に於ける國家心の教育、或は國家感情にも申して宜いのでありませうか、是を國家心と云ふやうな言葉を使ひまして、それを幼児に養つて行く事が極めて大切である。而してその國家心を、

年長の子供に養ひますには自ら別の方法がありますが、幼児の場合に於きましては純觀念的に國と云ふ事を理解させる事は、將來としては勿論望ましい事ではありますが、幼兒期の現在に於ては聊か難い事である。難いと云ふのみならず、さう云ふ判つたやうな判らぬやうな觀念の仕向けが無理にされました場合には、本當に内面的にしみるゝとした心持を養ふ上に却つて邪魔になることもある。整つた形を與へて中味を後から造るに云ふ事はなかく、難いのであります、是は譬へば宗教教育、藝術教育、道德教育、皆同様の事でありませう。大人に於ては立派な觀念的性質のものになつて、私達を支配し指導して居ります事も、幼兒の場合に於きましては、其處を餘程上手にして行きませぬ、却つてやり損ひの元になるに云ふ事を考慮し警戒しなければならぬこゝがある。然らばさう云ふ風にしたならば幼兒

らしく、即ち性情の教育を云ふ範圍内に於て國家心を養ふ
ここが出来らるであらうか。昨日は斯う云ふ問題を考へたの
であります。その實際を致しましては、ほんの僅な事を申
上げたに止まりましたが、斯くの如く觀念で導く事が出来
なくて、性情そのものを促し起して行くを云ふ事の爲には、
先づ第一に我々お互ひ幼児の傍に居ります者が、この國家
心を充分に目からも聲からも、その他皆様の勝れた人格的
香りの中から、この子供にうつらせて行くやうな、さう云
ふ行き方でなければならぬ。夏ならば汗の臭ひと一緒に行
つても宜いのであります。(笑聲)國家心を申しましたも、何
も高尚な澄ましたものではないのであります。働いて居
る中にもあるであります。然してその爲にはお互ひが觀
念でこの問題を教育して行く任務に當ります以前に、本當
に自分自身がさう云ふ國家心の所有者になつて行かなか
やあならぬ。斯う云ふ事を先づ考へました。是は言ふ迄も
なき事ではありますが、……言ふ迄もなき事ならば言はな
くとも宜いのであります。……言ひ代へれば常に誰も心がけ
て居り、外の事は貧弱でありまして、外の事は乏しくあ
りまして、國家心に於て貧弱であり乏しいを云ふ事は自
ら許し難き事でありますが、然し是も始終この次から次へ
新鮮なる心持をして豊富にして行かなければならぬ事であ
りまして、この意味から幼児教育そのものゝ直接の教養を

しては、少し離れた事のやうに見へるかも知れませぬが、
今申述べて來ましたやうな必要上から、特に斯うした方面
の教養を絶へず我々は續けて行かなければならぬ。斯う云
ふ事を申述べました。

次に國家心を云ふ上から、國を云ふものが地圖に示され
た場合、地圖に示されたあの廣さ、是も子供には判らせ難
い事であります。『大きいのよ、大變に大きいのよ、日本中
はこの幼稚園の何倍あるでせうか』或は先生も一寸勘定が
出來ないでせう(笑聲)。勘定出來ないと言へばさう云ふ事
で濟んでしまひますが、その廣さを本當に認識させよう
と言つても判りませぬ。『日本の國は何年續いて居るのでせ
う。實に世界に比無き國なんですヨ。』と言つた處で、他の
比類ある方を知りませぬから判らない。或は國勢の色々の
大きな事に就きまして……輸出はさう、輸入はさう、何
處の國もさう云ふ商賣をして居るか、去年迄はこの港に何
處の國の荷は著かなかつたのに今年は何處の國の荷が入つ
て居る。是なごは愈々子供には分りませぬ。子供には國を
語るも言つてもなかなか判らせ難いのであります。但し、
判らせ難いから言つて判らせずに置く積りか言申します
を、さうではない。さうしても教育に於ては國を云ふ事を
判らせなければならぬ。たゞ觀念的には難しいのでありま
すが、幸なる哉、我が國は國を皇室が事實に於て、又私

達の心持の中に於て常にびたりこ一つになつて居るのであります。従つて國を感じさせる爲に皇室を感じさせる。皇室を感じさせる爲に國を感じさせる云ふやうにそれが同一目的に向ひ得るのであります。其處で國家心云ふ言葉で現はして置きますが、日本帝國に於きましては國家心は皇室の御事を思ふ事に於てその内容が充分に遂げられるのであります。その皇室の御事となりまして、是は觀念ではない。畏れ多い事でありませんが事實であります。是は充分にあの小さい子供にも感じさせる事が出来ることでありまして。その皇室のお話に就きましては萬世一系、實に尊い申しましては幼児にはその意義を捕捉する事は出来ない。幼児の心の中へは到底はいり得ないあの悠久の長さによつて説いた處で……聽ては是非判つて貰はなければならぬ事でありまして……今は判らせ難いのであります。其處でさう云ふ周圍から説いて行くのでなくして、皇室に關する實際の御聖徳の有難さ尊さ云ふやうな處から話して行きたい。昨日は斯う云ふ事を申ししたのであります。

昨日は其處の處で終つて居りましたが、それにもう一つ附加へます。この御聖徳の事に就てであります。こゝは間違ひ無くお聴取り願ひたいのであります。皇室の爲に盡さなければならぬ、忠義をしなければならぬ云ふ事は充分教へたいのであります。傳へたいのであります。是は

昔から子供の教育に於て實に大事な問題であつたのであります。あの小さい子供に斯う云ふ事がさう判るであらうか。この問題を唯さういふ言葉で言ひさへすれば宜いと思つて言つて居る人はなんでもありませんが、本當に考へてみるに随分難しい事であります。日本人が皇室中心に忠義を盡す云ふやうな事は、是は決して單なる外國人が申しますやうな義務では無いのであります。英語で申しますオブリゲーション。餘儀なくさせられる云ふ味の附いて居りますあの義務では決してないのであります。然も未だ本當にそこの事の判りかねる子供には、そこのことがよく分らせ難い。たゞさう教へて置いて宜い云ふならば教育者は何ら専門的に苦勞致しませぬ。其處でその意味合ひから致しまして……こゝらが非常にこまかい處であります……皇室に對する義務「貴君は大きくなつたらば皇室に對して義務を持つのである」と云ふやうな説き方よりも、甚だ適當な言葉でないかも知りませぬが、皇室に對する親み、云ふやうな事を、斯ういふ言葉を用ひて許して戴けるならば、皇室を心にちかぢか感じ奉るに申しては餘りに畏れ多い事ではありますが、唯、義務本分として遠く仰ぐだけでなく、自分にも少し感じられて來るちかぢか、有難さ嬉しさ、是をうんこ養つて置く必要があるのではないかと思ふ。宗教に於きましてさう云ふやうな事が考へられ

ますが、感謝云ふ、悦び云ふ、その感情に依つて結び附いて來ないものには本當に中から出て來るものは無いのであります。我が國の多くの道徳もその悦びの中から出て來る。まあ一般の事は兎に角致しまして、現に寔に有難い、上から親ませ給ふて戴いて居ります皇室。この皇室に對して寔に妙な言葉でありますが、子供の心を近よらせて頂かせてやりたいのであります。そのためには一つは御聖徳の事實を洩れ承りました限り子供に傳へて宜いと思ふのであります。日本はネ、皇室が御本家でネ、それから色々家が分れて居るのヨ云ふ事は、勿論その通りですから傳へて宜いのであります。御本家たるこゝが判つてそれから有難い事が判る云ふ順は幼児には難しいのであります。有難い事が先づ感じられてゐるこゝろへ、御本家云ふ觀念が然るべき時に與へられて來る。是が教育としての順序と思ふのであります。即ちその有難さ、臣民に對する皇室の有難さ、是を先づ充分に傳へたいと思ふのであります。そうした爲の一つとして、明治天皇の御製の如きはよく拜誦してみなければならぬと思ひます。明治天皇の御製の中にはそのまゝ幼児に話して判る御製は澤山有ります。御歌さして勝れたものが澤山あるのは勿論、幼児の心持に直ぐに行くやうな御歌が澤山あるのであります。殊に最近に出ました或る書物の中には明治天皇の御詠みになりました

御歌のその前後の情勢を側近者として書き記して居る本がありまして、我々は如何に、御歌が御歌として出來たのでなくして、お心持をすらく、大和歌の素直な形でお現はしになつて居る事を愈々有り難く感じられます。斯う云ふ事は始終に、言はず水の淵れないやうに取入れて行きたいものと思ふのであります。幼児の場合には心持より外に與へる事が出來ないと思へば即ち、觀念では與へられないと思へば、お許しを戴いて心持の方から皇室を感じ、それを幼児に傳へて行くより無いのであります。恐らくさう云ふ氣持で皇室を幼児に傳へて居りましてもお咎めは無からうと思へられます。私達では無いが、幼児に免じてお咎めは無からうかと思ひますので、こゝらは本當に餘程考へたいこゝろと思ふのであります。

昨日も、この御上京の機會に必ず二重橋近くおいでになりました、それを持つて各幼稚園にお歸りを願へたらば、斯う申し上げましたのも、觀念丈けならそんな事をしなくとも判つて居る事でありますが、それが其處に或る氣持が湧きましたならば、それを持つてお歸へりになる事も出来るか云ふ、さう云ふ意味であつたのであります。

以上は昨日のお話を少し中に入つて追加しました點であります。その次の考へまして、その觀念的なるものも、現在極く近くに事實として表現されて居りますものが

ありますならば、それは観念的性質を持つて居るものでありまして、それが幼児を取圍んで居ります生活事實の中に織込まれて居ります限りに於て、是を子供に持つて行く事は必ずしも難くはないことがあります。是を具體的に申しますならば、今あの戦ひに征く人々。或は國の爲に戰つて陛下萬歳を叫んで死なれた勇士の話。あのトーチカの周圍で、或はクリークを渡つて、食事をしないこと幾日、炎天下に燒けて戰つて居る云ふ事が今行はれて居る。然も是が歴史上に遺された記憶ではなく、又、誰かゞさう云ふ事を一つの思想の形にまで纏め上げた説話でもなく、現在の事實として澤山にあるのであります、その色々な事實話、ニュースの中に出ますもの、或は色々發表されますもの、實に日本的であるものである事を我々が感じられた時に、それを幼児に話す事、持つて行く事、是は今こそ出来る事だと言ひ得るかと思ひます。

かうしたお話、幼稚園話云ふものは所謂浮世離れたこと申しますか、狐や狸や、浮世離れたあの空想話の多い中に、斯うした事實話は特有の力をもちます。但しあの戦で死ぬ人は事實で死んで居る云ふよりも、事實を通り越して感激で死んで居るのであります。そこに事實の感激性がある。インスピレーション云ふものがある。……然もその事實は單なる平盤的事實の話ではなく、感激で戰つて、

感激で叫んで、感激で斃れて居るのです。その事實話云ふものは、幼児に持つて來るに最も適當な話である。然もそれが昔そういふことがあつた云ふ話ではない。又西洋にさう云ふ話が有つた云ふのではない。今の話として、話す人が眞に實感を持つてば血の匂ひを浮ばせる事の出来る程に生々しい話であつて、さう云ふ話の材料は今日充分にあるのであります。是は皆さんが既に御實行になつて居ると思ひます。今日の武勇美談申しますか、戦地の壯烈なるお話申しますか、さう云ふ事を然るべくお傳へになつて居ると思ふのであります。是は今日出来る事であります。若し是が時間的に經過した事であつたならば、觀念として残らない。けれ共、今事實でありますから『國の爲に死んだのヨ』云ふことが幼児にも實感になる。今生々しく實感せられる事實であります。そこで『何んの爲に死んだのでありませうか』云ふ子供に尋ねる。勳章の爲でありませうか、名譽の爲でありませうか、いゝえ『國の爲……』ところが幼児には分りにくい。一番分らせたい『國のため』ところが判らない。然も今日の時局は不斷出来なかつた場面を容易ならしむる云ふバックになつて居る。この條件に依つて、一寸難しげなあの觀念性で行かないでもそれを子供に傳へて行く事が出来る今日であります。

一體、私は何時も申上げるのであります、感激を感激

で傳へて置き乍ら、折角良いお話をして置き乍ら、その終りに、是を要するに是何の意味である。云ふやうな話の仕方は、話さして最も愚劣な行き方だと思ふ。氣の抜けた話に限つて。終ひを是を要するに……で結ぶ。(笑聲) サイダーを飲んでしまつた時に、寔にサイダーを有難ふございます。飲んで居る最中は味も無ければ、サイダー獨特のしゆつこする音も無い、其處では昨日口を開けて、云ふ。斯う云ふ氣の抜けた人は始めにお終ひを觀念で結ぶ。其の點を今取扱つて居るこゝへ持つて來てみますならば、今私は國家に對する忠節の話をする。今日の話は空想な話では無い。アンデルゼンの餡の腐つたやうな話では無い。

國家に對する忠節の話。——幼兒達もちやんとして居る。それから先生がすうつこ話をする。流石に氣の抜けたサイダーと異つて今の生々しい戰場の話でありますから聽いてゐる。さうして是で止めて置けば宜いのでありますが、『判つたか國の爲、是が忠節云ふものである。話は忘れても宜い、忠節云ふ言葉は覺へて置きなさい。』斯う云ふ行き方をしてはいけない。言葉じやない。觀念じやない。今こそ與へられる昭和十三年のこの事實であるのでありますから、それをそのまゝやつて行けば宜いのであります。さう云ふ教材に申しますか、それを充分にお用ひ願ひたい。或は既にお用ひになつていらつしやると思ひますが、その

時に保育實際の注意が一寸要るかと思ひます。その注意の一つとしては、今私達が狙つて居ります處は、國家云ひ忠節云ふだけでなく、その刹那に起るあの實際の感じを言はうとして居るのであります。その感じの處をきりつこ話を持つて行く事が必要であります。何も事變を事實として語るではありません。幼兒にこの事變そのものを理解させて置く云ふ事はさう必要でも無いと思ふし、又難しいのであります。青年教育の場合にはこの時局性に於て理解させる事が必要であります。其處が彼等に分る處でありませう。然し幼兒の場合には時局を教へ語ることは難い。時局保育だ云つて毎日三十分づゝ時局に就て話をする。

斯う云ふ事は、なさつてはいかぬと反對するのでもありませんが、國家心の華と咲いて華と散る、其處をしつかり傳へたいのであります。それですから前後の餘り詳しい話は致しません。『今日もお話するが、豫め一體何んの爲に戦ひをして居るのでせう。』こんな話は要りませぬ。又地圖を擴げて戦局地理を教へないでも宜しい。ドンドンボンボンと劇的に氣分を出して來る。さうしてその場面が何處であらうと、そんな地理的な事は幼兒にはさうでも宜いのであります。中學校や女學校ならば日本軍が斯う行つて斯う行つたか教へられますが、幼兒にはそれが出來ませぬ。『歐羅巴の大戦争より戦線がすつこ廣い』と云つて感心させようとし

ても何んにもなりません。そんな事はさうでも宜いのです。『暑い』『暑い』『暑い』『暑い』『暑い』『暑い』『暑い』『暑い』『暑い』『暑い』そんな處から話して行けば宜いのであります。(笑聲)さうして實感を出す爲にしがんで居る。頭の上へ彈丸が飛んで來るでせう。向ふをやつツける迄は死んではならぬから頭を下げて居るのです。『子供をしがまして、先生と一緒に這はしても宜い、さうして、うわアーと言はしても宜い。(笑聲)その實感を出して、ドンドン、バタツ前の人が倒れる、『天皇陛下萬歲』『陛下萬歲』その『陛下萬歲』云ふ氣持がこつちに乗移つて來なければ駄目ですよ。『陛下萬歲』血がばツミ飛ぶ。其處まで思ひ詰つて來たらこの邊から實感がきらツミ出ませう。

茲で皆さんの話し方の技術が發揮出來ますよ。即ちその戦ひの話を意義づける爲に、『此處を落して斯う進んで行く、此處を落さなければならぬ、此處は戦略上極めて重要な所である。』幼兒參謀本部のやうな難しい事を言つてもいけません。(笑聲)事變に力を付ける爲に言つたのでありませうが、必要はありません。

それから次の注意として、戦争の悲惨さを語る事もさう要らぬ事と思ふのであります。心を語れば宜いので、所謂戦争描寫をするのでは無い。戦争そのものを傳へようとするのでは無い。ですから前に倒れた人からしゅツミ血が

出た。そんな話是要らぬ。悲惨さ見へるのは傍觀者だけに見へる事で、戦つて居る者には悲惨でも何んでもありません。兎に角戦争の實況は餘り語らぬ方が宜い。さうもこの頃、家の子供は、幼稚園の夏の講習以來、時局の話をする。それも結構だが、家に歸へつて來ても眼の色が變つて居る。寝る時には鐵兜を枕頭に置いて、夜半に目を覺まして、血が出た血が出た騒ぐ。さう云ふやうな戦争話で神經を刺戟するやうな事は餘りやりたくない。

この秋は政府で展覽會を開きますが、その展覽會の繪はお姫様が、若殿様と櫻の下で朧月夜を眺めて居る云ふやうなものも餘り出さないで、(笑聲)時局性のあるものが多い事になるでせう。戦争畫、是は昔から澤山有るのであります。この戦争畫には二種ありまして、戦争そのものを描寫して居るものと、戦争の中に戦つて居る精神を現はした畫と二種あるのであります。あの日露戦争後、ルビンスタインの戦争畫は歐羅巴を震撼させた戦争畫であります。それは忠勇なる戦ひと云ふよりも戦争そのものゝ慘劇を感じさせてしまふ。『西部戦線異状なし』あの映畫を御覽になつたでせうが、あの映畫を觀て戦争の慘劇を感じさせられてしまふ。少くも幼兒にはいづれもいけません。こゝらの事が大事な注意かと思ふのであります。

其次に注意致したい事は、本學期のお話の材料は絶へず

それである云ふ事になります。幼児には少しきつ過ぎます。幼児が朝風に吹かれて秋の空の晴れて居るのを見て参りましたら、今の幼児に相應しい和かな幼稚園らしい話をしてやりませう。さうして時々この話をする。こゝらが皆さんと私達友人同志の御相談であります。唯さう云ふ話を成るべく多く、然し餘り多からず適度に、と言つても判りませぬが、やたらに多くてもいけない。そこらが實際問題でありまして、適當に、一週に幾度云ふ事を私は決定出来ませぬが、時々お話する。斯う云ふ事にしたらいと思ふのであります。

六 幼稚園に於ける個人主義傾向の注意

一番初めに申上げましたやうに、この時局に於てお互ひの仕事を反省致しますその標準として、この時局を代表されて居りまする、三つの標語、即ち盡忠報國、舉國一致、堅忍持久、斯う云ふ三つの點から反省してみよう云ふ約束で話を初めました。之れから、第二の舉國一致、この問題を以て反省してみる時にさう云ふ事が心付き、又考へられ来るか云ふ問題に入りたいのであります。

處で前からのお話に既に含まれて居りますやうな具合

に、觀念的意味に於て舉國一致云ふやうな事を幼児に直接教育する事は難しいのであります。皆さん、舉國一致しなければいけません。『何んの事が判らぬ。其處で是を幼稚園の今の生活に持つて來て考へてみました時に、二つの問題になると思ひます。その一つは將來舉國一致云ふやうな生活の充分出來て来るやうに、その方へ幼児を向けて置かうとする事でありませぬ。將來舉國一致云ふ形に於て大成する、その本の傾き、傾向を養ひ得たならば云ふのが一つであります。

もう一つは、同じ事を裏から考へまして、舉國一致云ふ事に向ふ本を養ふ云ふ事も相當難しい事でありませぬ。せめて、その反對に成長して行くやうな要素、舉國一致云ふ事の反對になるでもあらうやうな生活要素を除いて置きたい。斯う云ふ事になります。

幼児はこれから色々の良き教育を受け、良き社會體験を踏み、自分の社會に於ける自覺を進めますと共に、舉國一致に向つて反省して行くであります。少くも舉國一致せざるべからざる事を外からも必要とし、中からも欲望として強く持つやうにならませう。その時に必要は感ずるし、その慾望は持つけれ共、自分の性格そのもの、中にそれを邪魔する、それに差障りになつて行くやうなものが有つたならば大いに是は困るであります。而してこの邪魔にな

るもの、差障りになるもの、自分をして真に舉國一致人になり兼ねさせるもの、思へば是は幼稚園時代に斯う養はれてしまつたのだ云ふ事になりましたら大變な事でありませぬ。然もこの舉國一致云ふ事と反對の方向に行きます個人主義的傾向云ふものは、人間一生の中で、先づ幼児期に於てその癖をつけ易い問題なのであります。問題を其處へ引つくるめて、暫く舉國一致云ふ事から離れて、今日お互ひのやつて居ります幼稚園保育の中で知らず識らず個人主義的傾向を助長するかも知れないやうな傾きのものがありはしないだらうか、あつたら是を訂正しなければならぬのであります。それとほんの裏表の關係で、一寸意の用ひ方で、舉國一致云ふ大きな事ではありますけれど、みんな一致する云ふやうな、そつちへ向くであらう事の、心の芽のやうなものでも養ひ得るものが幼稚園の中にあるとすれば、是は大いにその意義を發揮し、我々はそれを利用しなければならぬ云ふ、斯う云ふ實際問題になります。幼兒がその性情を養はれます家庭、この家庭は一種微妙な世界でありまして、彼處には家族多勢寄つて居ります。その中で個人主義も利他主義も區別のつかない、或は其處まで分化しない人間感情がふつくら養はれて居るのが家庭であります。家庭では子供は相當我儘を言つて居ります。親は我儘を許します。其處に相當個人主義的傾きが

出るやうであります。家庭の中に於て親と自分の關係、兄弟と自分の關係、その事自體がしつかり、真に家庭らしき關係に於て存在致して居りますならば、その方が大きな事實でありますから、その中行はれる我儘の方は、寧ろ家庭團結、家庭的の一致を強める位のものであります。それで個人主義的性格が養はれる云ふ事は必ずしもありません。家中からほい／＼養はれました子供は、一面我儘にもなりますけれど、よく家庭生活自體を味ひました結果、本當の性情の根本に於ては人と共に居る事の悦びを充分體驗して育つのであります。即ち非個人主義の性格になるのであります。

人の爲に盡す、兄弟互ひに遠慮を續け合ひ、子は親の爲に色々盡す人ふやうな事を、真に自分の中から出て來る成年期で無い幼年期から、餘り強ひられませぬ、却つて妙に個人主義を養はれたり致します。水臭ひ家族の關係の中に道義的に行はれて参ります秩序關係云ふものは、決して本當の和合の生活を性格的に養ふものではない。『さうもお宅様のお子さんは、何んも個人主義で無い事でせう。お饅頭を一つ貰ふ云ふさ、ちやんさ兄弟の年に依つて配分し、自分はその年齢の部分だけを食べていらつしやる。實にあゝ育てれば個人主義にはなりません』と言ひますが、それは必ずしもさうでありませぬ。兄弟が一つになつ

て居る感じが其處では却つて抜けて居るかも知れないのであります。それで年齢に相當する配分なんて云ふ事は個人を個人として分けて居る丈けの話でありまして、非常に合理的に個人が一緒に暮して居る丈けで、個人が和合融和して居るのとは違ひます。寧ろ一つのお饅頭を年の差も無くすうッ食へてしまふ。きちン切るのは面倒臭いから宜い加減の處から切つて食へてしまふ。僕の方はもう少し有つたらうと、事を面倒にする場合もありますが、兄弟仲が良かつたら……自分の食へる分が無くなるのは残念ですからごん／＼自己の權利を主張して食ひます共……：それが多からうと少からうと、そんな事は問題では無い。共に食つた云ふ、それが楽しいのであります。庖丁できちン切ると何んだか兄弟の中も庖丁で切られたやうな氣がする。寧ろ一つの饅頭が色々の恰好に切られてもそれ／＼兄弟が食へ合ふ處に饅頭主義家庭生活が行はれるのであります。(笑聲)時に依りますと「いゝだらう、兄ちゃん、いゝだらう、僕食へたいから兄ちゃんも食へてしまふよ」ミ弟が占領する。傍で見て居ると非常に個人主義の弟のやうであります。兄は「せめて一寸舐めさせろ」なんて言ひます。其處に言ふに言へないものがある。(笑聲)だから家庭の中では個人主義とか和合主義と云ふ事を超越した、ぼやツミしたものがあるのであります。さうした子供達が幼

稚園に出て來るのであります。初めて浮世の風に晒されるミ申しますか、兎に角人の世に出る。先生から皆仲良くして言はれても、さう云ふ譯で兄弟でも無いのに皆この幼稚園に來たのだらう。子共は判つたやうな判らぬやうな、嬉しいやうな心配のやうな、あの野郎と一緒にゐる爲に來たのではないと思つて居るかも知れない。(笑聲)先生は人間社會理想主義を掲げて『本園の幼児たる者は兄弟でありませ』と申しますが、正直の處他人で、本當の兄弟は太郎兄ちゃんです。(笑聲)さうしてそれで先生は個人主義が排撃出來たものと思ひますが、私は寧ろそんな不自然な事をするミ却つて個人主義が中から出て來ると思ふ。私は幼稚園と云ふものは寄合所帯ですから色々餘所から寄つて來て、これから一日一日、一ト月一ト月、重ね來る生活體驗の經驗が經驗せられるのである。經驗が經驗せられるのであります。その經驗せられる間には喧嘩もする。喧嘩したお蔭で人間關係に就て考へられる。今日の喧嘩を思ひ返して思索に耽けるミ云ふ事もありませぬでせうが、(笑聲)喧嘩して初めて人間の關係が判る。兎に角く自分と行違つて居たものがあつて、こゝでやアやアさやる。其處に人間關係の強烈なる意識を引起して來ます。或は誰か怪我を一寸致します。今迄口をきいた事は無いけれ共、その子が『痛いから傍に居て頂戴』と云ふので何んだかもチもチして

『さうかい、痛いかい』なんて言つて、そつち向くのは氣ま
りが悪くて反對の方を向いてぢいッミ番をして居る。先生
が来るさ』この人、怪我しやアがつた』と言つてうしろ向
て居る。先生は理想主義ですから『こつちを向いて、お互ひ
に助け合はなければいけません』云ふのですが、子供はそ
んな處ではない(笑聲續く)さう云ふ理想主義が直ぐに現は
れて來ない、經驗が經驗されて來る。その經驗されて來る
中にこちらの指導の仕方では非個人主義になり、或は個人主
義になる事が屢々出て來るのであります。

『みんな一致』、圓滿に輪を作つて、さうして先生がハー
モニを弾く。』云ふので個人主義のやうなキイの音が
こーンと鳴るのであります。(笑聲)輪は圓滿、音楽はハー
モニ、楽しいのネ』なアに楽しくも何でも有りアしない。
(笑聲)斯う云ふ理想主義でやらう』言つても駄目です。

其處で我々の狙つて居ります處は、子供達に人と一緒に
居る事の悦びをうんご養ひたい。幼稚園の教育價値を説く
人が今日でも斯う申します。幼稚園に來て子供は社會的訓
練を受ける』と言ひます。訓練云ふ意味が、若し社會生活
の悦びを訓練させる云ふ事でしたら私の考一致して居
る。社會生活の義務性を訓練させる云ふのでは、私の考
と非常に異つて居る。共に居る事の悦び、共にする事の悦
び、是を考へたいのであります。

舉國一致とは二つの問題を含みます。國を擧げて一つの
方向へ進む云ふ事が舉國一致の一つの點であります。國
を擧げて目指す處が一つであります。あゝ悠久の大行進、
國を擧げて一つの方向に行くのであります。私はこつちへ
行く、お前はあつちへ行け、ばら／＼では無い、是が舉國
一致云ふ事に於て極めて大事で有る事は云ふ迄も無い。
恐らく今日この時局に即して要求されて居ります舉國一致
の意味は其處が主であらうと思ひます。しかも舉國一致云
ふ事のもう一つの大事な意味は、一つの方向に行く云ふ
ふ動きの意味の外に、この互ひの間が密着して居る。互ひ
の間が粘着して居る云ふ。互ひの間が和して居る云ふ
この點であります。ここによつたらば、ここによつたらば
でありますよ、ここによつたらば、一つ方向に進んで行く
一隊は髓に皆一つ方向に一致して居りますが、その中で或
は争ひ競つて居るかも知れません。私はさう云ふ行列を屢
々見ます。一つ方向には進んで居るが、その互ひの間はく
つついて居ないのであります。是では方向が一致して居る
云ふ事だけではあります。然し乍ら本當の舉國一致は方向
が一つである事の外に、皆が和して居る云ふ事ではなけれ
ばならぬ云ふ點、これこそが幼稚園で養ひ得られる點であ
ります。皆今日國民の赴く處の方向を知つて居ります。子
供は、こつち、あつち、こつちは壁だ、色々云ふでせう。

〔笑聲〕日本國民の行方、是は判らぬ。だけれ共、『みんながそつちへ行くなら行きたいね、私一人別に行くのはいやだ』と云ふ和合の心丈けは幼稚園で養はれる。其處で、私は茲に於て皆さんの御反省を願ふ。詳しく申上げる迄も無い、御反省を願へば宜いと思ひます。

幼稚園の中で迄、極めて舊式なる競争心に訴へる教育が行はれて居りませぬか。人を競争させて、それでこつちの思ふやうな事を實現して行かうと云ふのは競馬であります。馬の社會でも出来る事であります。然も永い間それが人間の教育に於て行はれて來たのであります。今日相和する事を本體とする教育の中で、或はまだその原始的なる、粗野なる、淺薄なる競争的激勵法が用ひて居られはしないだらうか。部屋を共にして居る子供達の中に於て、誰さんに負けない爲に斯うしろと云ふ事がよくぬけくと言へるものだ。私は思ひます。やつた事に於て同じではありませぬから或る者が勝れます。その勝れたる者も悦び、負けたる者も共に悦ぶ、『宜かつたねエ、君、うまく出来たねエ、』是は宜しいのであります。誰かど一等賞にゴールインしました、宜かつたねエ、なぜ君の勝つた事を悦ぶかと言へば僕も先着したかつた、僕も先着したかつたのを君が先着したから悦ぶ、『まあさう云ふ譯であります。それは當然であります。するに勝つた方は面映氣に『君が駆けて來る事に

氣が付かないで、ベストを盡した、そのベストの中に差が有つて僕が勝つた、勝つて済まぬネ、君を負かす心算では無かつたが勝つてしまつた。これが畢り君の負けた事になるのだネ。今度はベストを盡せば君の方が勝つかも知れない』それを先生が聽いて居て『みんなが一緒にゴールに入ればこんな嬉しい事は無い』そんな理想主義を言つてはいけません、『そんなにみんなが一緒に入つては賞品が足らぬ』〔笑聲〕そんな現實主義に走つてもいいけません。運動會と云ふものは競争性を多分に含んで居ります爲に動物的活力、アニマリステイックバイタリティーでやつて居るのでありますから、勝たうとして騎虎の勢ひで迄行かなくとも、犬猫の勢ひ、けんやんの勢ひになつてしまふ。〔笑聲〕あんた、うまく勝ちなさい。』是は職業選手です。實に下劣であります。藝術品等も競争心で激勵して、『うまく書けた者には是をやる』と言つたやうな行き方は實に下等だと思ふ。斯う申しますと、『それでは勵みがつきませぬ、先生こそ理想主義な事を言つて居る』とお責めになるかも知れませぬが、其處が苦心ですネ、其處が苦心なんです。書いたものが皆同じで、うまきはうまきにしてよけれ、まづきはまづきにしてよけれ、それでは終ひには子供は書く氣が無くなりますが、其處に微妙なる苦心が要るのであります。少くも初めから競争心に訴へて行くやり方は個人

主義養成の搖籃をなすものだと思ひます。

話をぐツミ別な方へ持つて参ります。幼稚園ではそんなに揃はないでも宜い云ふ事を申しましたが、舉國一致の玉子であります。舉國一致の雛型であります。始終一緒になければならぬ。遊戯室で遊戯をする、一緒にピアノに合はせて、左の脚を上げる、斯うやつて左の脚を上げる。誰か右の脚を上げる。舉國一致が亂れた、其處までやかましく言はなくとも宜い私は言つて居りますが、(笑聲)それに就て斯う云ふ問題が有る。何も揃はなくとも宜い、遊戯の本質の中に揃ふ云ふ事丈けが重大な事では無いのでありますが、揃つて居ない事に氣が付いて居ないで平氣でやつて居るやうな心持には一寸問題があります。レビューの、あの少女達が揃へるやうにすう／＼揃へる、そんな事はさうでもよろしいが、自分ひまり違つて居ても平氣で居る云ふのはさうかして居るのです。『遊戯だから揃はなければならぬ』は申しませぬが、貴君のテンポが遅い爲にみんなの樂しさが崩れる『云ふ其處の感じは養ひたい。あの藝人が踊つて居る時にも屢々さう云ふ事を見受けますが、自分は抜けてしまひたいが、矢張り、にこツミする處はにこツミして、くるツミ廻る處はくるツミ廻つてやつて居る。その氣持の中には、お客様に濟まぬからやつて居る云ふ藝術表現ささしての責任感もありませうが、私が抜

けたら一緒に演つて居るこの一致的快感が崩れるのであらう云ふ處から抜けられないのです。その氣持は私は幼稚園で養ひたい。或る唱歌を唄つて居る時に一人の子が調子外れで、我れこゝに在り云ふやうな聲で、うわアミーやつて居る。それが別に音楽として良いとか悪いとか云ふのでは無いけれ共、みんな違つて自分ひまり皆別で平氣だ云ふやうな心の養ひ方は非常に考慮して行くべきであります。殊に皆が唄つて居るのに唄はないで平氣で居るのは最も變であります。私のつまらぬ作品を皆さんで唄つて下さる云ふので、昨日遊戯の時間を拜聴致して居りましたが、皆さんが立つて唄つていらつしやる時に、腰をかけて唄つていらつしやる方がありました。お疲れだらうとお察して居りましたが、よく皆さ步調が合はなくて平氣でいらつしやるなアと思ひました。皆さんがお腰をおろす時はすうツミ揃つておろされましたが、是もお疲れになつて居るので腰をおろすのがお揃ひになつたのだと思ひました。(笑聲)道徳的に揃つたのでは無かつたかと思はれました。そんな問題は茲では論じませぬが、性格それ自身の傾きの中に、さうした人との關係の和合一致さう云ふデリケートの感じを養ふ事は非常に必要だと思ふ。殊に幼稚園で競争心に訴へて行く場面には、随分反省の餘地が有ると思ふ。人と一緒に居る事の樂しさを在園數年の間に味はずして出て行つてしまふ者が相當あるのじやないでせうか。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽 一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉 橋 惣 三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催
 一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金貳拾圓	金拾圓
壹年分	金四圓拾錢	金拾圓	金拾圓
拾貳冊送	金四圓拾錢	金拾圓	金拾圓
拾貳冊送	金四圓拾錢	金拾圓	金拾圓

昭和三十二年十月十三日印刷納本
 昭和三十三年十月十五日發行

幼兒の教育 第三十八卷 第十號

不許複製 禁止轉載

編輯者 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內 倉 橋 惣 三
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 柴 山 則 常
 印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 倉 橋 惣 三
 印刷所 倉 橋 惣 三

發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

注文規定

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。
 一、郵券代用の場合は振替貯金(割増)で願ひます。
 一、東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

此の秋の屋外保育用品

今次事變に鑑み幼兒體育向上のため特に吟味製作せるお子達の最も歡ぶ品々

◇行進 タンク——豆戰車の形、十個の車で上體を前後に動搖させるに前進するもの
一 臺 金 十二圓

◇行進 木馬——乗つて手綱を引くに前進開始、熟練によつて速度を増す
一 臺 金 五圓五十錢

◇押 車——幼兒が自由に押し歩く運搬車、多種多様に應用の塗廣し
一 臺 金 四圓五十錢

◇ト ロ ッ コ——車、心棒も堅牢無比、子供に種々應用し得る
一 臺 金 四圓五十錢

◇携 帶 黒 板——幼兒自身で適宜の所へ持ち運ばれる自由な折疊式黒板
一 組 金 十八圓

◇折 疊 卓 子——堅牢な蝶番で折疊み自由、長さ四尺巾二尺高さ一尺五寸、
二脚、一組 金 七圓

その他幼稚園託兒所幼兒用各種運動具、木製各種保育用品多種。



食 館 レ ベ ー レ フ 社 會 全 株

番 二 六 六 三 (33) 話 電 ・ 二 町 保 神 ・ 田 神 ・ 京 東 社 本
番 七 二 八 三
番 八 三 九 一 (24) 話 電 ・ 五 町 後 備 ・ 區 東 ・ 阪 大 店 支